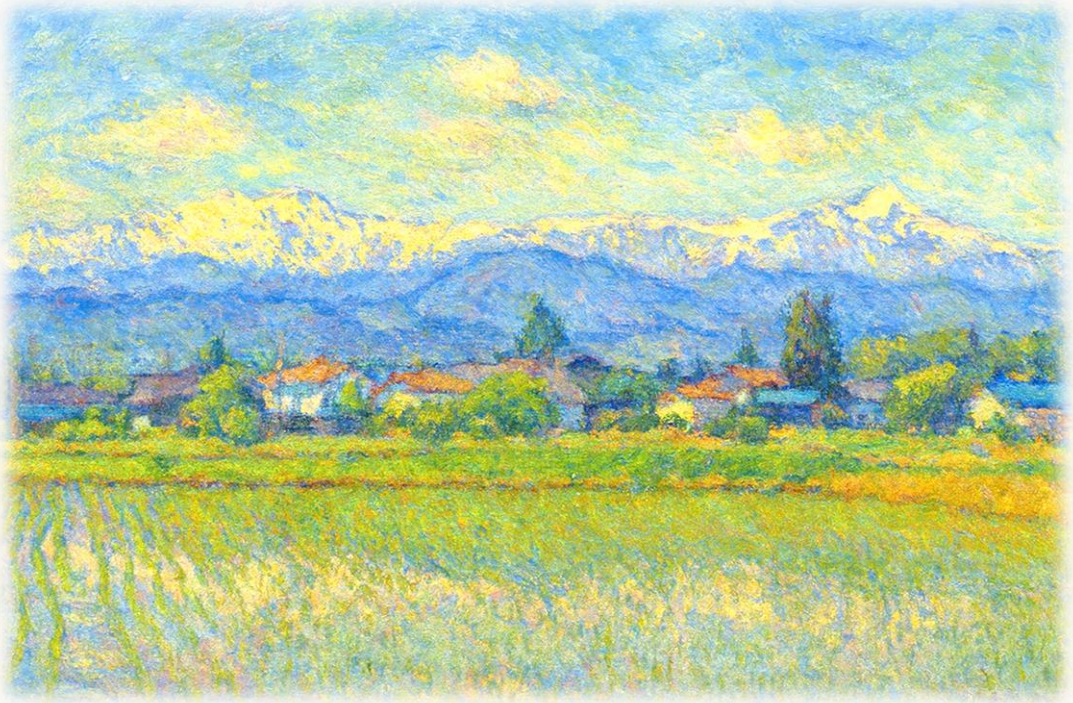
令和7年度　喜多方市小学校農業科

# 作文コンクール作品集



喜多方市教育委員会

# 喜多方市小学校農業科作文コンクール作品集

# 発刊に寄せて

喜多方市教育委員会教育長　佐川　正人

今年度も、市内全小学校十六校、一千三百十七名の児童が小学校農業科に取り組みました。児童たちが土に親しみ、作物の成長を見守る中で、多くの学びと気づきを得ることができたのは、農業科支援員の皆様をはじめ、会津農林事務所様、会津よつば農業協同組合様、県立会津農林高等学校様、そして地域の皆様の温かいご支援とご協力のおかげです。心より感謝申し上げます。

今年の夏は、昨年に引き続き記録的な酷暑が続き、水不足も心配されるなど、自然の厳しさを感じる年となりました。そうした中でも、児童たちは懸命に農作業に取り組み、収穫の喜びを仲間と分かち合うことができました。その体験を通して得た思いや学びが、今回の作文に素直な言葉で綴られており、一つひとつの作品から、子どもたちのまなざしや心の成長を感じ取ることができました。

特に印象に残ったのは、「自然との対話」と「感謝の心」です。作物の成長を見守る中で、自然の恵みや命の大切さに気づいたこと、また、支えてくれた人々への感謝を言葉にした作品が多く見られました。農業科の学びが、児童の心に深く根を下ろしていることを実感いたしました。

本作品集には、各校から選ばれた入賞作品を掲載しておりますが、すべての児童が真剣に取り組んだ作文には、それぞれの思いと努力が込められています。この場を借りて、農業科に取り組んだすべての児童に、心からの拍手を送りたいと思います。

最後に、ご多用の中ご寄稿いただきました関東学院大学教授の佐藤幸也先生、また、研究会にて貴重なご意見を賜り、審査にご尽力いただきました審査員の皆様に深く感謝申し上げます。今後とも、児童の豊かな学びを支える農業科の取組に、変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げ、作品集発刊のご挨拶といたします。

# 寄　稿

## 生成ＡＩ元年と農業科

関東学院大学教授　佐藤幸也

### １　生成ＡＩは人間を超えるのか？

手塚治虫が描いた「火の鳥」の未来編に、機械（ＡＩ）が暴走して地球を破滅に導く話が出てきます。映画「猿の惑星」でも人類の愚かしさが描かれ、衝撃のラストが登場します。人間が判断を誤ったからです。ＡＩは最後の判断を下すことはできません。人間が行うのです。そして、人間は失敗を繰り返しながら成長する存在です。

さて、今進められている研究の多くは軍事をはじめ、金儲けして、世界の富を独占し、人や他国を力で支配し、相手から根こそぎ奪ってしまおうという技術開発です。

また、未来学者やコンピュータサイエンスを研究する科学者たちの中には、人間は労働から解放され、自動運転も出来て、どこにも行ける、気軽に生きていける時代が来るという人もいます。確かに、今年行われた大学入試のための「センター試験」で、ＡＩは東大生以上の成績を示しました。将棋や囲碁の世界でもＡＩがプロに勝つことがあります。

でもここには落とし穴があります。すでに決まっている答えを素早く解いた結果だからです。今回は、この点を少し考えてみましょう。

### ２　人間だから出来ること～思いやりの感情や他者や自然の側に立って考えること

ＡＩは今のところ指示されたことしかできません。ただし、人間よりはるかにすごい計算が得意です。ＡＩ搭載の機械は一度に大量に同じものを作るのが得意です。危険な場所でも作業します。しかし、危険なところに機械を投入するのは人間です。

では、クモはどうでしょう？壊されるとまた同じ場所に

同じ巣を張ります。ビーバーは大水で巣が流されてもまた同じように作ります。他の動物たちも大体そうです。

人間は？壊されたり流されたりしたら、次は場所を変えたり、作り方や素材を変えて、より安全に作り変えます。そして、作る前に、どうして壊れたのか？どうすれば壊れないか？もっといい方法は、と考え、図面を書き、材料を集め、作り方を工夫し、実験を繰り返します。その時、年間の天候や地形、地面の様子、他の動物に襲われないかなど、あらゆることを考えます。それまで体験したことがない、考えたこともない「想定外」のことも考えます。私たちは歴史や世界のこと、宇宙のことなども**想像して考えます**。小学生の皆さんが空想すること、夢見ることなども、実は同じです。その考えたことを、言葉や数式、絵などにかいて表現します。これが人間です。**感性と理性の統合**です。

初めて田植えをしたとき皆さんはどう**感じ**ましたか？支援員さんたちが準備してくださった水田にはたくさんの生き物が住んでいます。コイ、フナ、ドジョウ、ナマズなどは水田で産卵します。外敵の少ない水田で子どもたちが育ち、やがて水路から川や沼などに行き、大人になります。稲にとっての害虫はクモやカエルの餌です。農薬以上の仕事をしてくれます。カエルやフナなどはサギなど鳥の餌になります。鳥たちがする糞を栄養にしてイトミミズやプランクトンが発生し、とろとろした稲の寝床を作ります。ここには、飯豊山や雄国から流れてきたきれいな水が、あらゆる生き物の栄養になります。ぬるっとした土（布団）に苗を植えた時、皆さんはこうした世界に触れ、いろんなことを理解しましたね。理解することを理性＝学びと言います。そして、冷たい、ぬるい、いろいろな感覚があふれたでしょう。大きくなって、たくさんお米をつけてほしいと願ったでしょう。準備してくださった支援員さんや先生、長靴やタオルを用意してくださった家族の皆さんの優しい愛情も、田植えの済んだ、きれいに並んだ緑の稲を見回した時、心が温かくなり、「ありがとう」の言葉が浮かびましたね。これが感性＝こころです。

日本にコメが伝わって約３千年。３千年間もこうして生きてきたのです。ここから文化や科学が生まれました。この感性と理性は、人類が長い歴史を経て獲得してきたもの

です。皆さんの身体には、地球誕生46億年がつまっており、日々再現しているのです。この理性と感性のおかげで、動植物を愛しく思い、雪山、紅葉した磐梯山を美しく感じ、故郷や家族を大切にしたいと願うのです。そうです。皆さんの作文や絵にはそのようなことがたくさん表現されています。人間が幸せに生きていくために大切なものがあふれています。これを育ててくれるのが、みんなが集い、笑顔になる「農業科」です。ＡＩには出来ないことです。それらしく振舞うことはできます。詐欺にあうのはそのためです。

**物を見分ける力＝学ぶ力＝分別を身に**着けることを勉強と言います。これが生成ＡＩ時代に最も大切なことで、それらは自然などとの直接体験から生まれます。

## ３　世界はＡＩ開発と脱ＡＩ、人間性を回復しようとしている

欧州やカナダ、オーストラリアなどでは、子どもたちのパソコン、スマートフォン使用制限をしています。東北大学医学部と仙台市の共同研究でも脳や心の成長にとても良くないことが証明されており、いくつかの町や県でも対応を始めました。その対応として、人間性の回復と人間らしい成長のために農業を学び始めています。

ＡＩはすごく進化し、便利になりました。ですが、開発途中でもあり、家庭や学校で使い方を誤るとブレーキのない車に乗るくらいのリスクを負います。

便利な機械を使いこなす前に必要なのが豊かで、それぞれ個性的な人間形成なのです。その指導の専門家は先生方です。家族や地域の人々の信頼と暖かなまなざし、思いやり、自分たちで解決できない時は周りにいる大人たちが手を差し伸べる環境が大切なのです。都市部で不足しているのがこの環境、社会関係です。進学塾などでは苦手なことです。

だから、アジアをはじめ多くの国、地域、日本各地から視察が来るのです。皆さんがとり組んでいる農業科は、人類にとって最も基本的で本質的、つまり本物勉強なのです。その上、日本の農業は人類、世界を救おうとしています。皆さんの学びは世界の学びなのです。

# 入

# 賞

# 作

# 品

喜多方市小学校農業科作文コンクール表彰式
令和８年２月１３日　於：喜多方市役所本庁舎　大会議室

目　次

## 【大　賞】

小学校最後の農業科
関柴小学校　六年　大槻　雅薙　11
どうしてとれなかったの、里いも
熊倉小学校　四年　町田　夢叶　12
農業はぼくの夢
堂島小学校　五年　三橋　煌大　13

## 【優秀賞】

はじめて育てた大豆
第一小学校　三年　福田　友李　14
農業科での学び
第二小学校　四年　山岸　優里　15
農業での経験
松山小学校　六年　川口　颯太　16
生き物たちとのバトル
第三小学校　三年　五十嵐　檀　17
一つぶから広がる感謝の輪
熊倉小学校　五年　唐橋夏々帆　18

# 【農業科賞】


忘れられないかぼちゃ　第一小学校　四年　渡部　花音　１９

かぼちゃを育ててみて　第一小学校　四年　田中ほのか　２０

ラベンダーから学んだこと　第一小学校　六年　田中　小春　２１

米作りを通して感じたこと　第二小学校　五年　梅本なつめ　２２

大豆を育てたよ　松山小学校　三年　鈴木　創太　２３

いっしょうけんめい育てたかぼちゃと小豆について　松山小学校　四年　平田　陽莉　２４

農業科から学んだこと　上三宮小学校　三年　花積　冴　２５

心をこめて「いただきます」　第三小学校　五年　齋藤　美桜　２６

大豆を育てて　関柴小学校　三年　徳重　彰悟　２７

農業科で学んだこと　農業について考えたこと　熊倉小学校　六年　赤枝菜々美　２８

学校での米づくり　堂島小学校　四年　小室　陽大　２９

元気に育ったさつまいも
塩川小学校　四年　阿部里都子　３０
お米を作って
塩川小学校　五年　北村　日和　３１
とっても大きくなったね
塩川小学校　五年　紺野　杏珠　３２
農業から学んだこと
塩川小学校　六年　秋元　博仁　３３
農業科の学習で一番夢中になったこと
姥堂小学校　五年　武藤　羽彩　３４
多くの人に知ってほしい思い
駒形小学校　六年　大西　雪乃　３５
農業科で学んだこと
山都小学校　六年　氷室　芽久　３６
カボチャを育てて
山都小学校　六年　佐藤　優愛　３７
印象が変わった米づくり
高郷小学校　五年　小林　倫子　３８
※　以下、Web版のみ掲載
入選作品　３９
学校推薦作品　４８
編集後記

# 【大　賞】

## 小学校最後の農業科

関柴小学校　六年　大槻　雅薙

六年生は会津伝統野菜を育てて、漬物を作る活動を行うことになりました。そこで、伝統野菜について調べ、きゅうりとなすの他に小菊かぼちゃを作ることにしました。

苗を植えたり、支柱を立てたり、一生懸命世話をしました。苗はすくすく育って、六月には余蒔きゅうりがなり始めました。試食してみると、調べて分かった通り青くささがなく、とてもおいしく食べることができました。

わたしたちは、漬物を作って販売するために、会社を作りました。わたしは生産部で栽培担当になりました。きゅうりもなすも順調に育ってきたので、営業部に伝えました。そして、社長、営業部長と開発部長が漬物屋さんに製造をたのみにいきました。

しかし、そこで漬物が完成するまでには、六ヶ月以上かかることがわかり、目標だった十一月の販売に間に合わないことが分かりました。そこで、わたしたちを救ってくれたのが小菊かぼちゃでした。関柴地区にたい焼き屋さんがあり、かぼちゃのあんこでたい焼きを作ることを引き受けてくれました。生産部も十分な量のかぼちゃをとるために、責任重大だと思いました。

十一月の販売に向け、営業部はたい焼きの名前、開発部は試食会の計画、デザイン部は包み紙、宣伝部はチラシやポスター作成に取り組みました。そして、学習発表会の日にできあがったかぼちゃのペースト入りのジャンプ焼きを販売することができました。わたしは、のぼり旗を持って呼び込みをがんばりました。三百個近く売り、「おいしかったよ。」の言葉を聞いて、とてもうれしかったです。

わたしは、農業科の学習で、作物に関わる人たちの気持ちや、苦労、作物の命について学ぶことができました。さらに今年は作った作物の生かし方を知ることができました。これから販売する会津丸なすの漬物でも、そのことをアピールして、市民の方々に買ってもらえるようにしたいと思います。

# どうしてとれなかったの、里いも

熊倉小学校　四年　町田　夢叶

「どうして育たなかったんだろう。」去年はたくさんとれた里いもが、今年はあまりとれなかった。えだ豆もかれているところがたくさんある。

里いもは、わたしたちが植えた分だけでは足りないだろうと、支えん員さんが追加で植えてくださったのに。去年収かくした量よりもだいぶへっている。「収かく祭でみんなたくさん食べられるのかな。」収かくした里いもを見ていたら、とても心配になった。

わたしは、あまり収かくできなかった理由を考えてみた。まずは春の種いも植え。畑の土が、あまりやわらかくなくて、植えるのが少し大変だった。土のせいなのかな。

植えてからは、雨があまりふらなかったから、用む員さんの力も借りて何度も水まきをした。水が足りなかったのかな。

水まきをしなくてよくなってから、今年初ちょうせんの人じんの種まきをした。とても暑くなってきたから、ちゃんとめが出るか心配だった。でも夏休みに入るまで、水まきをがんばった。がんばってお世話したけど、人じんのめは出なかった。暑さのせいなのかな。

私は、四年生になって初めて、作物の成長に太陽と雨が関係していることを知った。今年の夏はすごく暑かった。朝から夕方まで太陽がギラギラしていた。それに好天が続いて雨があまりふらなかった。この二つが大きな理由だったのだ。

来年の農業科では、今年知ったことをぜひ生かしてがんばりたい。雨がふらないときには水まきをがんばる。暑いときは、どうすればいいのか今はわからない。でも何か暑さ対さくをすればいいんだ。たくさん育てて収かくできるように、みんなの協力も必要だ。私たちの見えないところでいろいろと協力してくださる支えん員さんへの感しゃの気持ちを忘れず、友達と協力しながらがんばっていきたい。おいしいいも汁を作りたい。

# 農業はぼくの夢

堂島小学校　五年　三橋　煌大

学校の農業活動では、米づくりをしています。田植えや稲刈りなどをみんなで行い、ちゃんとしたお米ができたことがとてもうれしく、達成感を感じることができました。でもこれは、地域の人や農業科支援員の方々がぼくたちに優しく作り方を教えて下さったおかげです。本当に感謝しています。

ぼくの家はせん業農家です。米だけでなく、大根やかぶ、トウモロコシなどの野菜もたくさん作っています。ぼくは時々手伝いをしています。例えば、大根やかぶの種を植え、水やりをしました。いらない部分の所をつんだり、ふく風によってハウスのまどを開けたり閉めたりもしました。そして、収穫の時期になりたくさんの大根やかぶなどの収穫をしました。

「手伝ってくれてありがとう。」

と、お父さんが言ってくれました。家族のみんなが喜んでくれて、一緒に美味しい米や野菜を味わうことができてとてもうれしかったです。また、近所の人たちにも食べてもらいました。近所の人たちからも、

「ごちそうさま。大根すごくおいしかったよ。」

と言ってもらって、もっとうれしかったです。

ぼくは将来、家族と一緒に農業をやろうと思っています。理由は、みんなが「おいしいよ。」と言って喜んでくれる農業をしているお父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃんの力になりたいと思うからです。社会科で農業について勉強したときに、人手不足、気候変動、地産地消の勉強をしました。これから農業をすることは大変なことかもしれませんが、ロボットや人工知能を活用して、人手不足、気候変動にも負けない農業をしていきたいです。そのためにも、農業のことをたくさん学んでいこうと思います。いつかぼくが作った農作物を、家族や地域、世界中の人に食べてもらい、「おいしい。」と言って喜んでもらえるように、勉強もがんばります。

# 【優秀賞】

## はじめて育てた大豆

第一小学校　三年　福田　友李

ぼくは、農業科の授業で大豆を育てました。初めて大豆のたねを見たときは、白くて丸くてびっくりしました。よく見ることがあるえだ豆は、平たい形だからです。ぼくは、大豆のさやの中のたねは、形を変形させているのかとふしぎに思いました。

大豆のたね植えでは、指の第一関節くらいまで土をほり、たねを穴に入れたらやさしく土をかけました。ぼくは、「じょうぶに育ってほしいな。」と思いました。

何か月かたつと、大豆が大きく育っていました。さやもいっぱいになっていてうれしい気持ちになりました。さわってみると、中に豆が入っていることが分かりました。少しだけしゅうかくして、えだ豆として食べることにしました。まずは、さやといっしょにゆでた豆です。えだ豆があったかくておいしかったです。次にさやに塩をかけて食べました。しょっぱさがえだ豆とよく合いました。大豆は白くて丸くて、えだ豆とぜんぜんにていなかったのに、大豆からえだ豆ができたので、とてもおどろきました。

秋の終わりに畑に行くと、緑だったさやが茶色になっていました。今度は根っこごとぬいたら、根に大豆より小さいたねのようなものがついていました。気になったので、今度くわしく調べてみたいです。

国語の学習で「すがたをかえる大豆」を学び、大豆が色々な物にすがたを変えることが分かり、特に食べてみたいいり豆ときなこにしました。二つともとてもおいしかったです。

このようにぼくは、大豆を育ててたくさんのけいけんをしました。そして、大豆について知らなかったことが色々あることが分かりました。自分が作るやさいは、おいしく味わえることを知ったので、家でもやさいを作って育ててみたいです。

# 農業科での学び

第二小学校　四年　山岸　優里

わたしたち四年生は農業科で、里いもを育てることにしました。

まず、苗を植え、水やりをしました。初めはじゅんちょうに育っていきましたが、しゅうかくしたら、消しゴムくらいの大きさでした。「せっかく水やりや草むしりをがんばったのに」とわたしはショックを受けました。しかし、良いこともあったのです。それは、里いもと一緒に育てた大豆が一つだけ育ったことです。なぜなら、昨年も同じ大豆を育てた時は、まだ種のじょうたいの時に、カラスに全て食べられてしまったので、今年、そのリベンジで育てた結果一つだけ育ったからです。そのすがたは、物語の「一つの花」のコスモスのようでした。そのすがたにわたしは、思わず、感動してしまいました。みんなで、その一かぶのために、草むしりや水やりを「これは成功させるぞ」という気持ちで協力してやりました。そして、その大豆は無事にしゅうかくすることができました。

その後、十一月に、しゅうかく試食会をしました。まず、里いもを洗うのですが、外は寒くて、水が冷たかったので、「早くあたたかい部屋に行きたい」と思いながら洗ってしまました。次に、うすく切った里いもをフライパンで焼きます。その時にわたしは、里いもを焼くなんて聞いたことがなかったのでびっくりしました。そして出きあがったものが、里いもチップスでした。その味は、ほんのり里いもの味がして、でも、ポテトチップスのような味がしておどろきました。

今年も農業科をやり、育てた作物が大きくなっていく喜びやあらためて農家の人から作物をいただくことへの感しゃの気持ちを学びました。そして、またあらたに、みんなと協力する大切さを学びました。このような体験を通して、クラスの友達とのきずなも深まりました。農業科は大変なことも多いけれど、それ以上に、多くのことを学ぶことができ、わたしも作物とともに成長したいと思います。

# 農業での経験

松山小学校　六年　川口　颯太

ぼくが農業科の学習でいい経験になったことは二つあります。

一つ目は、ポップコーンの育ち方を知ったことです。ポップコーンの種を植えた時、どうやって成長するのか友達と話していました。「すごく大きくなるのかな。意外と小さいのかな。」など、いろいろな予想を言って楽しみに待っていました。約二週間たった後、畑に草むしりをしに行きました。すると、十センチぐらいの、少しむらさきが混ざった芽が出ていました。草とほぼ同じ大きさだったので友達とよく見て抜きました。夏休みが終わってポップコーンを見に行くと、自分の身長と同じぐらいに伸びていて、びっくりしました。とても大きく育ってくれて感動しました。その後、収穫し、干した後に、実を芯から外しました。協力して作ったポップコーンはどんな味がするのか楽しみです。

二つ目は、コウゾです。卒業証書を作る材料と聞いていたのに、実際のコウゾは細い木でした。初めて見た時、「これがコウゾ？」と本当に紙になるのか不思議に思いました。コウゾを刈り取る時、のこぎりで切りました。切るのが難しかったけど、友達と協力して頑張りました。刈り取った枝の皮をむいて叩きました。ずっと叩くのは根気のいる作業で少し疲れました。最後に紙すきという作業をしました。紙の形にするのが難しかったけど、うまくできたと思います。卒業証書を受け取るのが楽しみです。

最後に、支援員さんに伝えたいことがあります。農業のことについて教えてくれてありがとうございます。やり方や成長の仕方などをわかりやすく教えてくれて、上手に作業することができました。支援員さんに農業の豆知識なども教えてもらい、農業のことがもっとくわしくなり、好きになりました。

これからも、もっと農業に関わっていきたいです。

# 生き物たちとのバトル

第三小学校　三年　五十嵐　檀

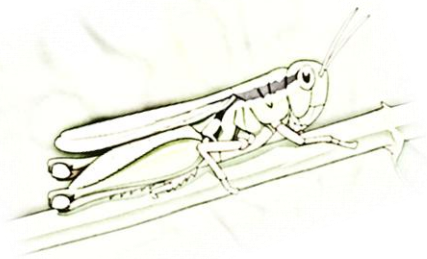
わたしは、作物のまわりの生たいけいを知り、植物の病気について調べました。

わたしは、さまざまな野菜を見て、コオロギや、クモ、時にはキジがまわりのざっ草を食べているのを見て、

「こんなところにもキジがいるんだ。生たいけいが豊かだな。」

と思いました。りっぱなはくさいをよく見たら、小さな穴がポツポツとできていました。イモムシがくっついていたので、イモムシが食べたと思いました。大根が、害虫のひがいを受けて、ほとんどが葉はカサカサで、中身が空っぽでした。ほかに、大豆ががい虫や病気のひがいを受けて、しゅうかくしたけど、食べられませんでした。私は、大豆のシミのようなはん点がきになり、大豆の病気について調べることにしました。一番あてはまったのが、さび病という病気です。さびの様なはん点が葉やくきにできるのだそうです。しゅうかくした大豆はあてはまったので、さび病ではないかと思いました。そして大豆のからに穴があいていたから、中身を見たら、何かに食べられたあとがありました。なにかのがい虫ではないかと思い、調べたら、シンクイムシが食べたことが分かりました。来年はぜんめつさせられないようにみんなで力を合わせてくふうをしたいです。

来年はもっともっとたくさん作物を作りたいです。農業科しえんいんさんに教えてもらった学びをいかしておいしい作物を作りたいです。



# 一つぶから広がる感謝の輪

熊倉小学校　五年　唐橋　夏々帆

「発見いっぱい農業科！」これが、私の農業科体験を一言で表す言葉です。

五年生になり私たちは米作りたん当です。私は米作りについて、「田んぼになえを植えること」だと単じゅんに考えていました。しかしその考えは最初の段かいで大きく変わりました。田んぼに入る前のなえが、実は小さな一つぶの「種もみ」から、長い時間をかけて大切に育てられていたことを知ったからです。私たちが種もみをまいた日から、苗になって帰ってきたあの日まで、見えないところで命が育っていたこと。私たちがふだん見ている田んぼの風景は、農家の方々の見えない努力と、作物の命を守り育てる責任感の上に成り立っているのだと、はだで感じることができた「発見」でした。

そしてもう一つ、私の心に深くきざまれたのは、「人の温かさ」です。特に印象に残っているのは、しゅうかくの時です。私たちは、すべて自分たちでやるぞ、と意気ごんでいましたが、なれないかまでのいねかりは想像以上にむずかしく、なかなか進みません。そんな時、農業科支えん員の方々が、なれた手つきで次々といねをかるのを目の当たりにしました。私はそのすがたに、単なるお手伝いではなく、長年の経験による「技術」と、私たちへの「愛情」を感じました。自分たちの力だけでなく、多くの支えん員さんの方々の支えがあって初めて、私たちはしゅうかくの喜びを味わうことができました。

これらの経験を通し、私は「買う」ことの意味も再発見しました。スーパーで作物を買うことは、一生けんめい作った農家さんの生活を支え、感謝を伝える大切な行いなのだと気づきました。「いただきます」という言葉。これからは食事の合図としてだけではなく、お米の命、そして関わるすべての人への感謝をこめて手を合わせます。農業科で学んだ「支え合い」の心をむねに、これからは私が誰かを支え、感謝の輪を広げていきたいです。

# 【農業科賞】

## 忘れられないかぼちゃ

第一小学校　四年　渡部　花音

私は、かぼちゃが大好きです。赤ちゃんの頃からりにゅう食で食べていたとお母さんが教えてくれました。今でも天ぷらやに物にしてよく食べています。

今年の農業科の学習でかぼちゃを育てました。そこで初めて、かぼちゃの種を見ました。こんなにも小さな種から本当にかぼちゃができるのだろうかと不思議でした。

初めて芽が出た時は、とてもうれしくて、ワクワクした気持ちになりました。苗を植えた頃は小さくてかわいらしいかったけど、日がたつにつれてぐんぐん伸びていき、元気に育っているんだなとうれしくなりたくましさを感じました。今年は暑い日が続いたのでかれてしまうのではないかと心配にもなりました。そんな暑さにも負けず、夏休みが終わる頃には、実をつけ始めていました。最初は緑色で小さかった実が、少しずつ丸く大きくなっていく様子を見ると、「農家さんはこんな気持ちなんだろうな」と思いました。小さな種から芽が出て、それがどんどん大きくなり実をつける。大きくなるのはうれしいし、暑ければ心配にもなる。いつもはスーパーに並んでいるかぼちゃしか見たことがなかったけれど、それまでには大変な苦労があることを知りました。

ついに収かくの日。私たちが育てたかぼちゃは、少し小さかったけれど、夏の暑さにたえ頑張ったんだと思うととてもかがやいて見えました。学校の調理実習で、電子レンジで温めて塩をふって食べました。とても甘くてホクホクで、今まで食べたかぼちゃの中で一番おいしかったです。

いつも当たり前のように食べていたかぼちゃだけど、たくさんのお世話をして農家さんが頑張ってくれているおかげだと感謝の気持ちでいっぱいになりました。これからも食べ物を大切にし、農家さんへの感謝の気持ちを忘れずに過ごしていきたいです。

# かぼちゃを育ててみて

第一小学校　四年　田中　ほのか

わたしは、農業科の学習でかぼちゃを育てた。

まずは、三人ずつのはんに分かれて、校庭にある畑に種を植えた。わたしのはんは、三種類のかぼちゃの中から、甘みが強くて大きな実になるほっこり一三三の種を選んだ。

そして、はんの友達と交代で水やりをしに畑へ行った。校庭のはしにある畑まで行くのは、正直めんどくさいなと思う日もあった。でも、友達といっしょだから楽しかった。ある日の昼休み、校庭に遊びに行き畑を見ると、少し芽が出ていた。それからは、校庭に行く度に畑を見に行った。大きくなっていくツルや、葉を見るのがうれしかった。ついに小さな実がなった。その実は、少しずつ大きくなり、しゅうかくする時がきた。かぼちゃを両手で持ちくるくるとねじると、ブチッとツルが切れた。ずっしりと重かった。大きいものでは、サッカーボールくらいの大きさだった。わたしは、つるんとした平べったい種を植えた時、不安に思っていた。もしかしたらこの種は、虫に食べられて、無事にしゅうかくできないかもしれないと。しかし、大きくてきれいな深緑のかぼちゃをしゅうかくすることができた。そして、待ちに待った調理実習の日がきた。小さく切ったかぼちゃをゆでて、つぶし、さとうと米粉をまぜてよくこねた。手がつかれたら、はんの友達と協力して順番にこねた。それをみんなで一口サイズに丸めた。最後にゆでて、水にさらしたらかぼちゃ団子のかんせいだ。つやつやできれいな黄色だ。食べてみると、もっちりとしていて、よくかむとかぼちゃの香りがして、ほどよい甘さがおいしかった。いつもはパクパク食べてしまうけど、この時は大事に一つ一つよくかんで食べた。

わたしはかぼちゃを育てる中で、友達と協力することで、最後までやりとげられるという事を学んだ。そして、自分の手で育てる楽しさを知った。だから、野菜を育てているそ父母の手伝いをもっとたくさんしていきたい。

# ラベンダーから学んだこと

第一小学校　六年　田中　小春

私たち六年生は、小学校最後である農業科の学習でラベンダーを育てた。昨年は、お米を育てて販売したり、調理しておいしく食べたりした。今年はラベンダーを育てると先生から聞いた時、育てた後はどうするのかなと少し不安に思いながら、農業科の学習が始まった。

私の学校の花だんは、毎年たくさんの花が咲き、我が校自慢の一つである。そこに、私たち六年生が植えたラベンダーが加わると、さらに花だんが華やかになった。次の日妹が、

「花壇の前を通ったら、ラベンダーのいい香りがしたよ。」と嬉しそうに話してくれた。それを聞いて私も、「一生懸命植えてよかった」と嬉しくなった。また、花は目で見て楽しむだけではないのだと知った。それからは、朝花だんの前を通るときに、ラベンダーの香りをかぐようになった。

するとラベンダーの香りでリラックスできて、気持ちよく一日のスタートを迎えられた。ある日、花だんの前にいた下級生が、

「ここすごくいい香りがするね。」

と言っていた。私たち以外にも、同じように香りを楽しんでくれる人がいた。その時、花は人の心を豊かにしてくれることに気付いた。それまでは学校の一部であり、立ち止まることのなかった花だんが、私にとって特別な場所になった。そして、先生が、

「今日は花壇のラベンダーを抜きます。」

と言った。私は、毎日多くの人を楽しませてくれていたであろうラベンダーが、花だんから消えてしまうことにさみしさを感じた。でも、抜いたラベンダーはドライフラワーにして、サシェを作るそうだ。きっと思い出の詰まった素敵な物が作れる。私はラベンダーをまた別の方法で楽しめることになり安心した。私は最初は農業といえば、食べ物だと思っていた。ただ今回ラベンダーを育てて、花との関わりを持つことの楽しさを知った。これからは、花にもっと関心を持ちたいと思った。

# 米作りを通して感じたこと

第二小学校　五年　梅本　なつめ

私は、五年生になり、農業科で米作りをしました。最初は、不安でした。お米がちゃんと育つか、稲刈りまで無事に終わるのか、私は米作りをしたことがないので、もやもやしていました。しかし、今、四月からの米作りをふり返ると、新たな発見や学び、嬉しさがたくさんつまった体験だったと感じています。

四月、種もみまきから始めました。お米の種となる種もみは、すごく小さくてびっくりしました。小さな芽が出ている種もみもあって、こんな小さな種が大きく育っていくことがとても不思議でした。次は、田植えをしました。苗が15ｃｍくらいに成長して、緑がきれいでした。田んぼがぐちゃぐちゃで歩きづらかったし、均等に植えられなかったけど、わくわくしながら田植えをしました。

その後、タブレットを持って、何度か観察に行くたびに、稲はどんどん大きくなっていきました。そして、あっという間に稲刈りの日になりました。鎌で、たくさん刈り取りました。この瞬間が、一番嬉しくて、楽しいものでした。

この米作りを通して、一番感じたことは、「生命」です。今年はもう暑日が多かった上、雨が降る日が少なかったので、お米が実るのか、ちゃんと稲刈りができるのか心配だったからです。しかし、無事に育ってくれて、生命の力強さがすごいと感じました。そして、感謝の気持ちでいっぱいになりました。

十二月には、収穫祭があります。心をこめて育てたお米をほかほかのご飯にして、みんなでおにぎりを作って食べるのが楽しみです。そのおにぎりには、稲を全て刈り終わった時の疲れやそう快感、田植えの時の、上手く植えられるかのドキドキ感など、たくさんの感情がつまったおいしさになるはずです。お世話になった農業科支援員さんへの感謝の気持ちをもって心をこめて、一口一口味わって食べたいと思います。

# 大豆を育てたよ

松山小学校　三年　鈴木　創太

ぼくたちは、今年、大豆を育てました。大豆を育てたことはないので、どんな育て方なのかなと楽しみにしていました。それから、何日かして見に行ったら、めが出ていました。それからまた何日かたったらまた大きくなっていました。ぼくはさいしょほんとうに大きくなるのかなと思ったけど、ほんとうに大きくなっていてびっくりしました。みんなも同じくらいの、大きさでした。ぼくはその四か月後に大豆をしゅうかくしました。ぼくはたくさん大豆をしゅうかくしました。「すがたをかえる大豆」では、大豆は、ダイズという植物のたねで大豆はかたいのでそのまま食べても消化が悪いから昔からおいしく食べられるくふうをしていたと勉強しました。まずその形のままいったり、にたりしてやわらかくおいしくするくふうです。いると豆まきにつかう豆になって、水につけてやわらかくしてからにると、に豆になる黒まめもに豆の一つでに豆には黒、茶、白、があるということを知りました。次にこなにひいて食べるくふうです。もちやだんごにかけるきなこも大豆でとうふも大豆でできているということも知りました。また、目に見えない小さな生物の力をかりてちがう食品にするくふうです。ナットウキンをかりたのがなっとうで、コウジカビをかりたものがみそやしょうゆです。さらに、取り入れる時期や育て方をくふうした食べ方です。大豆をやわらかいうちに取り入れたものをさやごとゆでて食べるのがえだまめで、大豆のたねを日光に当てずに水だけをやって育てると、もやしができるということを勉強しました。

最後に、自分たちで育てた大豆でとうふをつくるじゅ業をしました。はじめは、うまくできるかどうかしんぱいでした。農業科しえんいんさんにくわしく教えてもらったので、上手にとうふが作れました。とてもおいしかったです。

来年も農業科のじゅぎょうを楽しくやりたいです。

# いっしょうけんめい育てた
## かぼちゃと小豆について

松山小学校　四年　平田　陽莉

私は農業科で、かぼちゃとあずきを育てました。種を植えた時は、りっぱに育ちますようにと思いながら、種を植えました。種を植えた後、私はわくわくしていました。その後、私たちはかぼちゃや、小豆について調べました。小豆は、高タンパクやビタミンBぐん、ミネラルなどえいようがたくさんあることを知りました。こんなにもえいようがあったのかと、私はおどろきました。

次にかぼちゃは、何種類も種類があることが分かりました。細長い形や、小さくて丸い形のかぼちゃがありました。新しいことを知れてうれしく思いました。一ヶ月ぐらいたったころ、みんなで小豆をしゅうかくしました。小豆はりっぱに育っていました。しゅうかくした小豆をかんそうさせ、からから豆を取りました。大変だったけど、私は小豆がりっぱに育ってくれて、うれしくて仕方ありませんでした。かぼちゃはしゅうかくはできなかったけれど、水やりや草むしりをみんなでがんばったので、大きく育っていると思います。しゅうかくした小豆とかぼちゃで、とうじかぼちゃを作りました。作ったとうじかぼちゃは、買って作ったとうじかぼちゃより、自分たちで作ったとうじかぼちゃは、千倍おいしかったです。

さいごに、小豆とかぼちゃを育てて、色々な感情を知りました。しゅうかくできたときのよろこびやうれしさ。草むしりをしたときの大変さ。何かを育てるということは、かんたんなものではないということが分かりました。五年生になったら何を育てるか楽しみです。

# 農業科から学んだこと

上三宮小学校　三年　花積　冴

「しゅうかく祭の調理楽しみだなぁ。」「わたしたちが調理するごぼうのしぐれにって、おいしいのかな。」など、いろいろなことを思いながら、しゅうかく祭の日が来ました。

五月から十一月まで、ていねいに育ててきた野菜を使って調理するので、私はとてもどきどきしていました。農業科しえん員の方に教えてもらいながら、調理が始まりました。私のおばあちゃんも、しえん員として来てくれたので、しょうがの切り方を教えてもらいながら切りました。なかなか切るのがむずかしくて、最初は「うまく切れなくて、いやだな。」「こんなにむずかしいの。」と思ってしまいました。

けれど、だんだんなれてくると、楽しくなってきて、

「じょうずに切れた。」

と、おばあちゃんや友だちと話しながら、調理ができました。切り方もくふうできるようになってきて、ねこの手にして指を切らないようにくふうしました。

それぞれの学年で作った料理を食どうに運んで、昼食の時間が来ました。自分で作った料理はとてもおいしくて、おかわりしました。

また、今年は田植えいねかりをして作ったお米を「上三米」としてはん売しました。わたしは売る手伝いはできなかったけど、おばあちゃんといっしょに買いに行くと、みんな楽しそうに、

「上三米はどうですか。おいしいですよ。」

など、元気いっぱいの声で言っていました。

わたしも、みんなの元気につられて、楽しい気持ちになって家に帰りました。上三米を食べたら、ホクホクしておいしかったです。

わたしは三年生になって農業科で育てた野菜を初めて調理しました。わたしは、初めてすることや、チャレンジすることは、新しいことを学ぶスタートだと思っています。これからも、たくさんチャレンジしながら学校生活を送り、新しいことをふやしていきたいです。農業科の学習もがんばっていきます。

# 心をこめて「いただきます」

第三小学校　五年　齋藤　美桜

私の学校では、毎年五年生が農業科で米作りを行います。五年生しかできない体験なので、当たり前に食卓にある、真っ白でつやつやなごはんは、どのようにして育ち、私の口まで運ばれてくるのか学習するのが楽しみでした。

まず、種もみまきをしました。土にお米の種をまき、土をかぶせて、小さなプールの中に入れました。これは、「プール育苗」という育て方で、私たちが入るプールと同じように、苗が出てくるまでプールに入れてあげます。温度管理をしたり、水を切らさないようにしたりしなければいけないので、とても大変でした。でも、苗が育ってくるのを見るととても嬉しくなりました。

次に、田植えをしました。「じょうびき」という道具で、支援員さんが印をつけてくださったところに、私たちが苗を植えていきました。印がないと、植える場所が分からなくなるので、とても便利な道具だと思いましたが、昔の人たちは手作業で田植えしていたことを思うと、「本当に大変な作業をしていたんだなぁ。」と感じました。

最後に、稲刈りの前に、社会科で「東北むらせライス精米工場」へ見学に行きました。収穫したお米は、精米工場に集められ、たくさんの検査をして、袋詰めされます。そして、米の糖度などを機械で測定したり、異物が入っていないか人の目で確認したりして、私たちの近くのスーパーまで運ばれてきます。

私たちが当たり前に食べているお米は、本当にたくさんの人が関わっていて、たくさんの人の努力や苦労があることを知りました。

今、私たちがおいしいご飯を食べられるのは、農家さんが心を込めてお米を育ててくれたからです。そして、お米を届けてくれる工場の人たちがいるからです。たくさんの人たちに感謝の気持ちを込めて。

「いただきます。」

を言いたいと思います。

# 大豆を育てて

関柴小学校　三年　徳重　彰悟

ぼくは大豆を育ててみてびっくりしたことがあります。それは、はじめ五月に植えたので、七月ぐらいにとれるのかなと思っていました。しかしじっさいには、十月ぐらいになってようやくとれたので、大豆ってこんなに育つ期間が長い食べ物なんだなとあらためて思いました。ぼくたちは、大豆にするところまではしないで、枝豆のじょうたいでそのまま食べました。大豆にするにはもっと期間が必要になるので、さらにびっくりしました。

また、ふだん行っているスーパーマーケットにならんでいる大豆には、いろいろな工夫があって、農家さんがあいじょうをこめて大切に育てているんだなと思うようになりました。

今年農業科を学習しておもしろかったことは、大豆の成長の絵をかいたことです。なぜなら、大豆が日に日に大きくなっているのを観察して感じることができたからです。

また、農業科で教えてもらってすごいと思ったことは、ちいきの知らない人でも協力できるのがすごいと思いました。なぜかというと、ふつう知らない人に対しては、声をかけづらいけど、支えん員さんたちは、気軽に「がんばりましょう」とおたがいに声をかけ合うと言っていたので、農業というのは、みんなが仲よくなれる場所なんだなと思いました。

みんなでたくさんがんばって、枝豆を取ったときは、五月に植えたたねがこんなに大きくなってくるんだととてもうれしくなりました。みんなでとった枝豆は虫食いやペラペラなものが多かったので、食べられるものは少ないのかなと思ったけど、たくさんとれたので、安心しました。みんなで協力して作った枝豆はかくだんにおいしく感じました。これからも大豆だけではなく、食べ物に感しゃをこめて大切にしていきたいと思います。

# 農業科で学んだこと
## 農業について考えたこと

熊倉小学校　六年　赤枝　菜々美

私たち六年生は、農業科の学習で米作りと、野菜作りに挑戦しました。

農業科支援員さんに教えていただきながら、みんなで協力して手作業で苗を植えたり、収穫したりしました。自分たちが植えた米や野菜が成長する姿を見たときの喜びや収穫した時のうれしさはひとしおでした。そして、成長には天気が大きく関係していることが分かりました。

今回、私たちが体験したのはほんの一部ですが、とても大変だと感じました。家では祖父が農家をしていますが、日々、水やりや草かりなどのさまざまな作業をしているのを見て、大変じゃないのかなと思いました。

ある時、祖父に農業で大変なことは何かを聞いてみたところ、同じ姿勢で作業を行うことや機械や農業資材が高くなったことが大変だと言っていました。

私の家では去年まで米と野菜を作っていましたが、祖父母が高れいでできなくなったことや新しい機械や農業資材を購入するのに大金がかかることから、今年からは米作りを他の農家にお願いし、野菜だけを作るようになりました。

このように、農業の問題点の一つとして、高れい化があると思いました。そこで、私にできることを考えました。野菜を作っている祖父母の手伝いをすること、野菜の育て方を学ぶことです。少しのことかもしれませんが、自分のできることを行っていきたいです。そして、将来は祖父母に代わって野菜作りができればと思います。自分には関係ないではなく、身近な問題として考えていきたいです。

# 学校での米づくり

堂島小学校　四年　小室　陽大

堂島小学校では、農業科のじゅ業として、毎年お米作りをしています。

四月に種まきをするのですが、種まきは、五、六年生がやってくれます。約一ヶ月後に田うえをします。田うえでは、田んぼに入るのがとても楽しかったです。友達と協力しながらうえました。ずっと低いしせいでうえたので、終わったときはこしがいたくなりました。

秋になると、いねかりをします。かまを使って、いねをたくさんかりました。いねをかったあとは、いねを結ぶのですが、それがとてもむずかしくて、大へんでした。今は田うえやいねかりは機械でやりますが、昔の人はこれを手作業でやっていたのだから、本当にすごいなと思いました。あと、みんなで協力してやらないとできないなと思いました。

いねかりが終わったら、だっこくをします。だっこくでは、足ぶみだっこく機ととうみを使って、いねについているお米を取ります。まず使うのは、足ぶみだっこく機です。足ぶみだっこく機は、下にあるペダルをふんで、いねについているもみを取る作業です。そのあとにとうみを使って、もみがらやごみを風の力を利用してふきとばします。足ぶみだっこく機で、もみが取れなくてむずかしかったです。

こうして、ぼくたちが育てたお米は、しゅうかくさいで食べられます。お米を作るには、たくさんの時間や手間が必要なので、とても大へんだなと思いました。しかし、手作業でお米を育てることの大変さを知ったことで、食べ物にたいするありがたみを知ることができました。食事のときは、かならず、「いただきます。」「ごちそうさまでした。」と食べ物にかんしゃして、命をいただこうと思います。

# 元気に育ったさつまいも

塩川小学校　四年　阿部　里都子

「四年生では、さつまいもを育てますよ。」三年生のころ担任の先生から、そう聞いた時からずっと楽しみにしていました。

一人一人に苗がわたされ、農業科支援員の方からなえ植えのコツを教わりながら、植え方開始です。まず、スコップで土をほり、そこになえをきずつけないように、ていねいに植えていきます。なえの植え方には、くきをさしていくやり方や、ななめにねせていくやり方がありました。わたし達は、さしていくやり方で、「おいしいさつまいもになりますように」と、願いながら心をこめて植えました。かんたんそうに見えたけれど、実際にやってみると大変でした。

夏休み前、畑に行ってみると、さつまいもの葉が畑いっぱいに広がっていました。でも、それに負けないぐらい草もはえています。あまりの暑さに、草もあまりぬくことができず学校に帰ってきました。

十月、しゅうかくの季節がやってきました。夏ぶりに見たさつまいものなえは、さらにぐんぐん大きくなっていました。「夏休み中、お世話できなかったのに・・」と不思議に思っていました。後から、支援員の方がめんどうをみて下さっていたときいて、とても感しゃをしました。さつまいもは、とてもとても大きくて、びっくり。中にはとび出しているさつまいももあり、「元気に育ったんだなあ」と、うれしくなりました。

いよいよ育てたさつまいもを調理して食べる時がきました。グループで作るものを決め、協力して作りました。とてもあまくおいしかったです。

私は、このさつまいもをさいばいし、食べることまで体験し、農家の方の仕事の大変さや、育てることの大変さを学びました。この農業科で「育てる心」を大切に、これからもがんばっていきたいと思います。

# お米を作って

塩川小学校　五年　北村日和

九月三十日、私たち五年生は稲かりをしました。初めての稲かりは、不思議な感かくでした。「ちょっと待って。」「私も手伝うよ。」そうしたペアの子と声をかけ合いながら稲かりをしました。

その稲かりで、私の思ったことや感じたことを三つ紹介します。

一つ目は、「ヌルヌルしているな。」です。五月の田植えではだしで入り、稲かりでは長ぐつで入ったので、足には付かないと思っていたけれど、服や手に土が付いて、動かしづらかったです。ですが、農家をしているおじいちゃんが、雨がふらない時期に、田んぼに水が無く、困っていたのを思い出し、ヌルヌルしているのも雨がふったおかげだと思い、がんばることができました。

二つ目は、「一かぶに何本も稲が付いているな。」です。人間は成長しても、もう一つ手や足が生えてきたりしませんが、稲は成長するごとに稲が増えたりするのは、不思議だと思いました。

稲やくきや葉が成長とともに増えるのは、なぜなのか、調べたくなりました。

三つ目は、「稲を結ぶのは、意外にむずかしくて、時間がかかるな。」です。おじいちゃん家の田植え、稲かりは機械でしているので、稲をひもで結ぶなんて、見たことも聞いたこともありませんでした。ですが、初めてでも楽しく、私はこのような何度も何度も同じことをくり返す作業が好きなので、とても楽しかったです。稲を稲かりがまでかるのはやらなかったので、またいつか、お米作りをするときに体験したいです。

お米作りを今年して、お米作りのこうていや、お米づくりの大変さが分かりました。おじいちゃんの農家の仕事も、今度手伝ってみようと思いました。私たちがふだん食べているお米や野菜なども農家の人たちが一生けん命作ってくれ、動植物たちの命をいただいています。このことをわすれずに、「いただきます。」「ごちそうさま」を大切にしたいです。

# とっても大きくなったね

塩川小学校　五年　紺野　杏珠

「とっても大きくなったね。」

と友達が言った。私も大きくなった稲を見てそう思う。

私たちは、農業科の学習で米づくりに挑戦した。この活動を通して、思ったことや感動したことがたくさんある。

五月、苗を植えた。田はドロドロしていて気持ち悪かったけれど、おいしいお米にするためにがんばった。近所の方も応援の言葉をかけてくださった。その後、観察に行って、成長を記録した。

九月になり、五年生みんなで田に向かったら、一メートル以上になった稲のかべがあったのだ。私は、稲をかまで切ってみた。意外と切れなくてむずかしかったが、慣れてくるとザクッという音が鳴り、楽しくなった。ペアの友達と交代して、稲を束ねる仕事もした。同じぐらいの量で束ねるのは、とても大変でつかれてしまった。ペアの友達ががんばろうと言ってくれた。おかげで、もう少しだから協力してがんばろうと思えた。稲の束をコンバインまで運ぶ作業は、重くて大変だし、転んでドロドロになってしまった。なんとか稲刈りが終わり、最後にはみんなで落ち穂拾いをした。一つ一つの穂を集めるのは、こしが痛くなった。

みんなで田植え、観察、稲刈りをしたからこそ、収穫が終わったときには達成感を感じることができた。今年の農業科は、去年よりずっと大変だった。大変だったからこそ、よい思い出になった。調理実習では、とても、モチモチのご飯をたくことができた。がんばったからこその味だった。ご飯がツヤツヤかがやいていた。毎日食べているお米だが、米づくりに関わってみて、より大切に思えるようになった。一つぶ一つぶを大切に食べ、自然に感謝していきたいと強く思ったのだ。

# 農業から学んだこと

塩川小学校　六年　秋元　博仁

ぼくは、六年生になってトウモロコシを育てました。そこで農業をしていくことで、大切なことを三つ学びました。

一つ目は協力することです。例えば、種まきや収穫は一人一人が協力しないとすごく時間がかかり、しかも取り合いになってしまうこともあります。ですが、学年全員で協力すると、早く終わり、しかもわからないところも教え合ったりもできます。そして協力した友達ともきずなが深まっていくので、協力することはとても大切だと感じました。

二つ目は、自然との関わりです。六年生の理科で学習した、植物は二酸化炭素を吸収し、酸素を出すというもので、そのときに植物がどれほど大切なのかを知りました。そして、この総合の学習で、理科で学んだことを生かしながら、土に触れたり、トウモロコシの生長を観察したり、汗を流して種を植えたり、収穫したりして、理科で学んだことをふり返りながら、改めて植物の大切さを知りました。

三つ目は、命の尊さや食の大切さです。なぜかというと、栽培から収穫までに、大切なことを学び、食に対する思いが強くなったからです。種まきは、小さな一粒に秘められた可能性を感じ、観察では、生長する姿から、命の力強さを感じ、収穫では、大きく育ったトウモロコシを収穫する達成感と、食べることへの感謝の気持ちを感じました。食の大切さは、ぼくが今まで何気なく映画館や、家で食べていたポップコーンに、農業の人たちの想像以上の手間暇と苦労が隠されていることを知りました。ぼくは、農業をして、植物への見方は、変わりました。

僕はトウモロコシを育てて、改めて農業は大切だと思い、人間が生きていくためには、自然との関わりが、一番大切だと感じました。

# 農業科の学習で一番夢中になったこと

姥堂小学校　五年　武藤　羽彩

農業科の学習で、わたしが一番夢中になったことは「お米作り」です。

わたしの家にも田んぼがありますが、今まで手伝ったことがありませんでした。しかし、三月の寒い時期から父や母がなえ箱に土をつめ、種まきの準備をしているのを見ていました。わたしたちが植えることができる状態までなえが大きく育ったのも、農業科支援員の先生が毎日大切にお世話をしてくださったからです。

五月には農業科支援員の先生のご指どうのもと、田植えを行いました。泥の中に足を入れるのは初めてで、冷たいけれど気持ちよかったです。なえが真っ直ぐ一列になるように気を付けて植えていきましたが、時々ふらふらして曲がってしまい、難しさを感じました。昔は家族全員で手作業だったと聞き、大変だと感じました。また、土を耕すなど、田植えまでの準備がすごく大変だと知りました。お米作りは、いねかりよりも準備が一番大変なんだと学びました。

十月には、かまでいねかりを行いました。初めてでしたが、先生に教えてもらい、上手にかれた時はとても楽しかったです。「サクッ」という音が聞こえるたびに、育てたお米を収かくできた喜びを感じました。でも、四メートルをかり終えるころには、こしが「イタタ・・・」となり、大変な作業だと実感しました。

十一月、調理実習の時に収かくしたお米をガスでたきました。こげないか心配でしたが、ふっくらもちもちにおいしくたけました。できたお焦げも香ばしく、お米がキラキラと甘かったです。あまりにおいしくて、わたしは思わず二回もお代わりをしてしまいました。

準備から収かく、食べるまでを体験し、ご飯一つぶのありがたさがよく分かりました。これからも、お米を作ってくださった全ての方に感しゃし、大切にいただきます。

# 多くの人に知ってほしい思い

駒形小学校　六年　大西　雪乃

私は、米作りを体験するまで、食べ物の作り方や、農家の人々の気持ちを、全く考えていませんでした。けれども米作りを体験したことによって、考え方が大きく変わりました。

私の祖父母は農業をしています。しかしその大変さは、米作りを体験するまで知りませんでした。そのため、

「今年は不作だった。」

と言われれば、

「もっととれなかったの。」

と文句を言うばかりでした。しかし、米作りを体験してみると、とてもつかれ、足はどろだらけになり、暑くてたまりませんでした。

「私が今まで当たり前にあると思っていた食べ物は、育てるのに、こんなにも苦労がかかっているの。」

と、衝げきを受けました。こんなにもう苦労して育てた食べ物に文句を言われた時、農家の人達はどう思うのかと考えると、罪悪感でむねがいっぱいになりました。これからは、食べ物を大切にし、農家の人達に、改めて感謝していきたいです。

最近、米の価格が高くなっているというニュースをよく目にします。多くの人は、

「米の値段が高い。どうにかできないのか。」

とばかり言っていますが、米作りを体験してからは農家の人達にとっては今の価格でつり合っているのではないかと思いました。なぜなら、苦労して作物を育てているため、米の価格が低くなってしまうと、農家の人達の生活が苦しくなってしまうからです。もっとたくさんの人に農業を体験してもらい、農家の人たちの生活もあるということを知ってもらいたいです。

農業は、私が思ってる以上に大変でした。この大変さをもっと多くの方々に知ってもらい、食べ物や農家の人達に関する考え方が変わっていってほしいです。

# 農業科で学んだこと

山都小学校　六年　氷室　芽久

僕たちは今まで農業体験として、さつまいも、大豆、じゃがいもを育ててきました。学校の近くには畑があり、僕たち六年生は、今年、かぼちゃとスイカの栽培をしました。種をまいてから収穫までの作業です。五月に種をポットに植えて、六月には畑に苗を植えました。夏には汗だくになりながら草むしりをし、かぼちゃの成長を楽しみにしていました。今年の夏もとても暑く、「この暑さでかぼちゃがちゃんと育つのかな」と少し心配でした。

僕のおじいちゃんも畑でいろいろな野菜を育てていて、さつまいもの収穫を手伝った事があります。おじいちゃんはよく畑に行って、野菜がちゃんと育つように草むしりや水やりをしています。収穫間近の野菜が野生の動物に食べられてしまう事もあり、管理するのも大変だと言っていました。

学校の畑でも農業科支援員のみなさんが、畑の耕し方や畝の作り方、苗の植え方、かぼちゃの種類や実のなり方を教えてくれました。農作業は外での作業になり、天候にとても左右されます。そして、とても重労働でもあります。農作物が収穫出来るまでは、とても大変で長い道のりだと感じました。

八月には、待ちに待ったかぼちゃの収穫をしました。つるがたくさんあって苦戦したけれど、立派なかぼちゃがたくさん出来ました。その量は軽トラックの荷台がいっぱいになる程でした。しかし、楽しみにしていたスイカは動物に食べられ、皮だけがただ残されていました。

早速、かぼちゃを家に持ち帰って、みそ汁に入れたり煮物にしたりして食べました。かぼちゃは元々好きでしたが、やはり自分たちで育てたかぼちゃは格別に美味しかったです。

僕は農業科の学習を通して、作物を育てる大変さを学びました。これからは、食べ物のありがたみと作ってくれた方への感謝の心を忘れないようにしていきたいと思います。

# カボチャを育てて

山都小学校　六年　佐藤　優愛

「命に感謝して、いただきます。」

これは私のクラスの、給食を食べる時の挨拶です。

私は今年、農業科でカボチャを育てることになりました。最初はカボチャを育てることは簡単だろうと思っていたけれど、実際は想像をはるかに超える大変さと、深い学びがありました。

まず、驚いたのはカボチャの成長スピードです。小さな種からあっという間につるが伸び、畑一面に広がっていく様子は、まるで生き物が必死に大地をつかもうとしているようでした。

そして、一番大変だった作業は草むしりです。うだるような暑さの中、長いつるに隠れた草を取るのがとても大変でした。友達と声をかけ合いながら、最後まで必死になって頑張りました。

心待ちにしていた収穫の日。ごろごろと葉の下から現れるずっしりとしたカボチャは、スーパーで買うカボチャとは重みも、色も違いました。それは、みんなで苦労した証でした。

この経験を通して、私は将来、大変でも諦めずに決めたことをやり遂げられる人になりたいと思いました。そして、いつも当たり前のように、野菜や食べ物を食べているけれど農家の方がいなかったら、今みたいに食べられないという事を改めて実感しました。これからも、きれいに完食したお皿を前に、頂いた命と生産者の方々に笑顔で感謝の気持ちを伝えていきたいです。

「ごちそうさまでした。」

# 印象が変わった米づくり

高郷小学校　五年　小林　倫子

私は最初、田植えや稲刈りは大変なことばかりだけだと思っていました。しかし、実際にやってみると印象が変わり、「ただ大変だ」というわけではないことが分かりました。そう感じた理由が二つあります。

一つ目は、達成感があったことです。私は、田植えをするために田んぼの中に入ることがとてもいやでした。田んぼの中にはカエルや虫などがいるし、ぐちゃぐちゃしていてとても気持ち悪いと思っていたからです。でも、美味しいお米を作るために入ってみました。最初はなれなかったけど、作業をしているうちになれてきて、平気になってきました。それに、分からなかったところや、難しいところを支援員の方がやさしく、分かりやすく教えてくれたので、やる気をもって活動することができました。

その後は、稲刈りをして、自分たちで米をとぐなどの調理もしました。私は、米の量をはかって米をたいて、たきあがったごはんを食べた時にとてもおいしかったし、みんなもおいしいと言っていて、頑張ってお米を育ててよかったなという達成感であふれました。

二つ目の理由は、お米を育てる大変さを知ったことです。私たちは、田植えと稲刈りしかできていません。もちろん、それだけも大変な作業でした。しかし、一番大変だったのは、私たちが普通に生活している間、朝も昼も、夜も、ずっとお米の様子を見てくれていた支援員さんだったと思います。その大変さを知ったからこそ、稲刈りや田植え、調理をがんばろうと思えました。

私の家もお米を育てています。でも、今年の学習を通して改めてお米を育てる大変さを知ることができました。また、初めて私もお米作りに関わってみて、大変でしたが、楽しかったので、次からお米を食べる時には、お米を育ててくれた方に感謝をして食べたいです。

## 【入　選】

### おいしかった大豆

第一小学校　三年　山口　詩乃

「早く大きくなってね。」

わたしたちは、夏に大豆のたねを畑にうえました。めが出てから一か月ぐらいたったら、四十センチメートルぐらいになりました。一センチメートルぐらいだったたねが、四十センチメートルも育つなんて、とてもびっくりしました。

夏休みが終わって畑に行くと、緑のえだ豆ができていました。ゆでて食べたら、とてもおいしかったです。

三か月ぐらいたって畑に行ってみたら、大豆は、すべてかれていました。大豆のしゅうかくの合図です。大豆を根っこごとぬくときは、とても力がひつようでした。友だちに手つだってもらいながら、ひっぱっても、なかなかぬけません。まるで「大きなかぶ」のお話みたいでした。力がとても強い子におねがいしたらスポンとぬけました。ぬけたとき、この子すごいなと思いました。

しゅうかくした大豆は、一週間ほした後、さやから大豆を取り出しました。その大豆をいっていり豆にしてから、フードプロセッサーできなこにして、みんなで食べました。

先生がきなこにさとうを入れたので、とてもあまくておいしかったです。

もともとわたしは、きなこがきらいでした。けれど作りたてのきなこに、さとうを入れて食べたとき、わたしはきなこがすきになりました。

食べ物を自分で作るのは、大変だということが、農業科の大豆作りを通してわかりました。時間はかかるし、水をやったり、せわもわすれてはいけません。いつも食べている野さいも、だれかが作ってくれたものです。これからは、かんしゃの気持ちをわすれずに、食べたいと思います。

### がんばりのお米

第一小学校　五年　遠藤　哲平

ぼくたち五年生はバケツ稲作りに初めて取り組みました。

五月、土作りから始まりました。土は一種類だけではなく、黒土、赤玉土など、数種類の土と肥料を混ぜ合わせました。稲はこの土の栄養で育つんだなと思いながら土作りをしました。実際の田んぼは、広くてたくさんの土が必要だと考えるので、農家さんはきっと大変だろうなと思いました。

それから毎日、土の様子を観察しながらの水やりがスタートしました。班で協力して、土がかんそうしないように注意してやりました。水はたっぷりあげました。苗が二十本、四十センチメートルくらいまで伸びたら、中ぼしをしました。とても大事な作業なので、注意しながら行いました。乾かしすぎると一日で枯れる場合があるので、土に少しひびが入った時に二センチメートルくらい水をあげました。

ぼくが一番楽しかった作業は、脱こく、もみすりです。まず、茶わんに穂を入れて引っ張るともみが取れます。引っ張る時の力加減がむずかしかったです。先生が、「ここまで上手にできたのは、初めてだ。」

とおっしゃっていたので、ぼくはとてもうれしくなりました。次に、もみすりは、すりばちで野球ボールですり上げました。身の回りの物を使って出来るんだなとびっくりしたと同時に感心しました。

そして、やっとお米祭りをむかえる事が出来ました。前の日から楽しみにしていました。出し物はお笑い、手品、クイズなどがあり、とてももり上がりました。特に、陸君のコインが消えるマジックには、とてもおどろきました。料理係が作ってくれた、お米で出来たみたらしだんごとおせんべいは、とてもおいしくて、ほっぺが落ちました。

ぼくは米作りを体験した事で、農家さんへの感謝の気持ちがさらに強くなりました。ご飯を一粒も残さず食べたいと思いました。

### はじめての農業科で学んだこと

第二小学校　三年　齋藤　咲那

三年生になって、はじめて農業科の学習を しました。わたしたちは、ポップコーンと大 根を育てることにしました。その中で、大へんだったことを三つしょうかいします。

大根の種まきでは、種を一つし

っぱいしてもいいように、同じ場所に二つずつまきました。大根の種がとても小さくて、びっくりしました。種をまいた時に、農業しえん員さんのたなぎさんが

「種をまいたら、土をやさしくかけるだけでいいんだよ。」

と教えてくれたので、わたしは、早く育ってほしいなと思いながら、そっとやさしく土をかけました。

水やりは、学級で当番を決めてやりました。わたしが当番の時には、たなぎさんが、「水は五秒間あげるといいよ。」と教えてくれたことを思い出しながらやりました。水やりに行くと前よりも葉が大きくなっていたり、葉の数が多くなっていたりしたので、大きな大根ができるかなどとても楽しみになりました。

草むしりは、農業科の学習の中で一番大へんな作業でした。夏休み明けに畑に行くと、畑の色々なところにたくさんの草が生えていました。それを見た時、こんなにたくさんの草をぬけるかなと心配になったけれど、友だちといっしょに一生けん命ぬきました。暑くてあせがたくさん出たり、と中で手がつかれたりしたけれど、さい後までがんばったら、畑がきれいになったのでうれしかったです。農家の人たちは、この草むしりをもっと広い畑でいつもやっているので、とても大へんだなと思いました。

わたしは、農業科の学習で、野さいを育てることはとてもむずかしいことだと分かりました。野さいができるまでには、たねまきからしゅうかくまで、たくさんの時間がかかることも知ることができました。今までは苦手な野さいもあったけれど、これからはのこさず食べようと思います。

## なくてはならない農業

第二小学校　六年　佐藤　栞愛

「えっ、小学校でメロンを育てるんだ。」

先生から今年の農業科について聞いて、私はおどろきました。メロンを育てるのは難しそうというイメージを持っていたからです。でも上手に育てられたら、普段はあまり食べられないメロンが食べられるんだと楽しみな気持ちになりました。

私たちは苗を植えてから水やりをしたり、メロンの花や実の観察をしたりして、メロンの成長を見守っていました。私はあまり農業に興味がなかったけど、成長を見守っていると少しずつ愛着がわいてきて、農家さんの気持ちが分かるような気がしました。

しかし、ほとんどのメロンは枯れてしまい、とても残念な結果になりました。毎年のことですが、農業の大変さ・難しさを改めて思い知らされました。こんな大変なことをいつもやっている農家さんはすごいなあとしみじみと思いました。

私は野菜が苦手で、野菜が出てくると残してしまうことが多いです。ですが、ニュースで、農家さんが熊などの野生動物や気候に悩まされながらも、一生懸命育てている様子を見ると、残してしまうことが申し訳ないなと思いました。これからは、育ててくれた人のことを考えながら、少しずつ野菜を克服していきたいです。

小学校生活の六年間で、いろいろな作物を育てたりして、たくさん農業について学んできました。農業は私たちが生きていくうえでなくてはならない、とても重要な作業だと気づかされました。人は生きていくためにしっかり食べなければいけません。そのために、農業をもっともっと大切に考える世の中になったらいいなと思います。

これからは、私ももっと農業に関心を持って、ご飯が食べられることに感謝して過ごしていきたいです。そして、私が農業科で学んだことを忘れずに、生活に生かしていきたいなと思います。

## 農業科で育てた落花生

関柴小学校　四年　小林　由

わたしは、四年生になり、落花生を育てました。わたしはピーナッツが好きなので上手くできるかわからないけど、みんなで協力してがんばって作ろうと思いました。

五月、落花生の種まきをしました。農業科支援員さんにわかりやすく教えていただいたので、種まきはスムーズに終わりました。これがあのピーナツになるのかとわくわくしました。数日後、落花生の様子をかんさつしました。たね

からくきがのび、子葉がはえていました。そこから葉がふえ、くきものびたとき、落花生を大きい畑へとうつしかえました。うつしかえが終わったら、さいごに水をたくさんあげました。何ヶ月かたち、様子を見に行くと、葉がたくさんふえて、なかにはもう落花生になっているものもたくさんありました。そして、収穫の日、落花生になっているものはさらにふえ、たくさんの落花生を収穫しました。虫に食べられているものもありましたが、どれもおいしそうでがんばったかいがあったと思いました。ＡＰＪ株式会社の人に落花生を加工してもらい、食べられるようにしてもらいました。ピーナツになってかえってきたとき、わたしは思ったよりも数が多くてびっくりしました。さいしょに、一人ぐらしのおじいさん、おばあさんに届けました。喜んでくれたと聞き、なんだかわたしもうれしくなりました。そのあとわたしたちも食べてみるとちゃんと実が入っていたし、ものすごくあまくておいしくて、がんばってよかったと心から思いました。昨年から農業科でいろいろなものをつくってきましたが今年のピーナツもあまくて最高でした。

農業科は、自然豊かな関柴町にぴったりだと思いました。このよさをいかして関柴町でもっとたくさんの作物を育てていきたいです。そして、今年のことをいかして来年も農業科をがんばっていきたいなと思いました。来年は五年生になってお米を作るのでむずかしいと思いますが、がんばりたいです。

## みんなで育てた栄養満点の食材

豊川小学校　四年　樋口　司馬

四月になって、農業科が始まりました。ぼくは、みんなと何の食材を育てるか決めました。ぼくがまず大切にしたいのは、「栄養」です。そして、決まったのはじゃがいもとかぼちゃです。

五月二日。さっそくひ料まきが始まりました。そして、ぼくは思ったことが一つあります。それは、ひ料がないと育たないのか。ぼくはそのことがぎ問でしかありませんでした。

次にマルチはりをしました。マルチはりはどんな意味があるんだろうと思いました。すると、農業科しえん員の方が、マルチはりの意味が、雑草を生やさないためだということを教えてくださいました。ぼくは、「へえ、そうなんだ。」と思いました。

そして、じゃがいも植えとかぼちゃの種まきをやりました。ぼくが一番大変だったのはこのじゃがいも植えです。最初やるときは、かんたんそうに見えたけど、やってみると、すごく苦せんしました。でも友達と協力してできました。また、農業科しえん員の方が、

「あとは、水をやんないでも大丈夫。」

と言ったので、ぼくはびっくりしました。

そして、三ヶ月たちました。八月。ぼくは、学校から畑に行く間じゃがいもとかぼちゃがどうなっているのかドキドキしました。畑につくと、くさいにおいがしました。するとみんなが「くさっている」と気づきました。くさっていたのは、じゃがいもです。ぼくは少し悲しかったです。でもとってみると、くさっていないじゃがいももあったので少しほっとしました。かぼちゃは大きくてりっぱでした。

あれから一ヶ月。いよいよカレーパーティーを開きました。みんなで育てたじゃがいもとかぼちゃをいただきました。みんなで育てた営業満点の食材はよりおいしく感じました。

来年の農業科では、「観察」をしっかりすることを目標としてがんばりたいです。

## おいしいお米に感謝

豊川小学校　五年　長原　寧音

今年、私たちは農業科で「米づくり」をした。米はいつも食べているからか、私はとても簡単につくれるものと思っていた。

米づくり最初の活動は、土づくりと種まき。米は、たく前の白い米しか見たことがなかったので、米の種が黄色で、しかも線が入っていることを初めて知って驚いた。

次は田起こし。支援員さんの話によると、種をまく田んぼの準備で、米作りにとても重要な作業の一つだそうだ。つまり、米にとっての布団作りだ。人間も寝るとき

に育つように、いい土だと、いい米が育つのだそうだ。私は、くわを使って汗だくになりながら作業に取り組んだ。

六月になった頃、田植えをした。「定盤」という昔の道具で土に線を引き、交わったところに、誰を植えていった。すべてが初めてで、土に足を入れた瞬間、動けない。ぬるっとした感触が何とも言えない。歩こうとするが足が抜けず転びそうになる。必死で植えた苗も倒れたり、曲がったり、作業は思っていた以上に大変だった。私は、「無事に育ってね。」と願わずにはいられなかった。

今年の夏の猛暑にも負けず、苗は順調に育っていった。しばらくして、「ころばし」という昔の道具を使って、草取りをした。イオン水散布もした。かかし作りもして立てた。

九月、とうとう稲刈りの時期がやってきた。田んぼには、たわわに実った稲の穂がたくさんあった。早速、支援員さんに「親指は立てて刈る」安全な鎌の使い方を教えていただきながら、一束ずつ丁寧に、稲かりをした。

その後、乾燥した稲は、足踏み脱穀機を使って脱穀した。体が何度も持って行かれそうになり、難しかったが、楽しかった。

収穫祭では、みんなでおにぎりにして食べた。苦労して作った米のおにぎりは、ほんのり甘く、格別においしかった。米作りは、ものすごく大変だったが、それ以上に作る喜びを感じることができ、いい体験となった。

## 農業科を振り返って

豊川小学校　六年　松川　優菜

ハウス作りから始まった米作り。去年は六年生の作業を見ながらできたけど、今年は自分たちが見せる番。お手本になるように頑張りました。

種をまいたら、いつ芽が出てくるか待ち遠しくて芽が出て大きく育った時はうれしかったです。田植えの前に田おこしもしました。くわで深くさして、耕すのが重いし、大変でした。苗が育って田植えをしました。はだしで田んぼに入ると足をとられて、何回も転びそうになって怖かったけど、みんなで泥だらけになって楽しかったです。そのあとも除草したり、虫がこないようにイオン水をまきました。

刈る前には、みんなでかかしを作って田んぼに設置しました。

稲刈りの日。分担してみんなで鎌で刈って乾燥させました。脱穀するまで二週間もかかるので雨が降らないか心配でした。

しっかり乾いて足ぶみ脱穀きで脱穀しました。昔の道具を体験してみて、コンバインだとすぐだけど、昔はこんなに大変だったんだなと思い、貴重な体験ができてよかったです。

収穫したお米をバザーで販売しました。たくさんの人が並んで買ってくれてうれしかったです。お母さんも買ってくれて、家族みんなで食べておいしいって喜んでくれました。

支援員の方を招待して収穫祭もしました。おにぎりとみそ汁をつくって、みんなで食べました。おいしかったです。

米を作るのは、すごく長い期間がかかるし、たくさんの手間がかかって大変なことというのを改めて感じました。当たり前に食卓に並ぶご飯だけど、自分たちで育てた大変さを忘れずにいたいです。

## 大へんな草とり

慶徳小学校　三年　佐藤　柚樹

今年の農業でいんしょうにのこったことは、くさむしりです。ぼくは、畑について、草が多いなと思いました。

草をむしったときはたのしかったけどだんだんあきてきました。まだまだいっぱいあったからつかれました。とっていると、土の中からミミズが出てきてじゃがいものはっぱには、あおむしがいて、ぼくはかわいいなとおもいました。ずっとつづけていたけれどまだまだあったのでため息をつきました。みんなでやっていたのでへっていきました。だからぼくもがんばりました。

バケツを見てぼくはびっくりしました。バケツの中が草でいっぱいだったからです。はるくんを見てみると、はるくんもびっくりしていました。畑も見てみるときれいになっていました。ぼくはやっと終わったと思いました。

草とりは、大へんだけど、草をぬくときの気持ちよさがあることを学びました。農業は大へんだけど楽しいこともあります。みんな

できょうりょくして畑をきれいにできたので、よかったなと思いました。

ぼくのいえは農業をしています。やさいをつくっています。おばあちゃんは一人で草ぬきやひりょうをやっていて、すごいなと思いました。ぼくもおばあちゃんの手つだいをしておばあちゃんをらくにしてあげたいです。来年はにんじんをうえるとおばあちゃんが言っていたので草とりをがんばりたいです。

## 笑顔をつくる野菜づくり

慶徳小学校　六年　佐藤　心優

「今日は慶徳玉ねぎの収穫をするよ。」

先生が朝の時間に、にっこりと笑顔で話を始めました。僕たちは、前から興味のあった慶徳玉ねぎをやっと収穫できるので、わくわくでたまりませんでした。

慶徳玉ねぎを知ったのは、農業科の学習で、会津の伝統野菜を調べた時でした。そこには慶徳玉ねぎのすばらしさが書いてありました。慶徳玉ねぎは、農林大臣賞を受賞していて、会津地方で有名な野菜だということ。そして特徴は、大きくて水分を多く含み、甘さも強く、何と言っても生で食べてもおいしいということでした。僕は、生で食べられる玉ねぎというところに、とても心が引かれて、食べられるのが楽しみだったのです。

畑に向かうと、農業科支援員の山内健一さん達が笑顔で迎えてくれました。

「玉ねぎを抜くときには、茎のところをしっかりと持って、真っすぐ上に上げるんだよ。」

山内さんは、丁寧に教えてくれました。

おそるおそる玉ねぎを抜くと、土の中から大きな玉ねぎが顔を出しました。

「でっかい、きれいだね。おいしそうだね。」

みんなが声をあげました。その場で皮をむいて食べると、つゆが出てきて甘い味でした。僕は慶徳玉ねぎのすごさを体験できました。

「おおい、玉ねぎスープ飲めや。」

農業科支援の皆さんが、取れたての慶徳玉ねぎを使って作ってくれました。

「これ塩だけしか入れてねえよ。うまいべ。」

塩だけの味つけで、こんなに甘くておいしいことに、みんなが驚きました。また、自分たちの育てた野菜が、こんなにおいしいことに育ててよかったと思いました。収穫した慶徳玉ねぎを家に持って帰ると、おばあちゃんがウインナーや人参などの具材を入れてスペシャルスープを作ってくれました。夕飯に家族みんなの顔が笑顔になりました。野菜作りは、人の笑顔をたくさんつくることを僕は学びました。

## ぼくの夢

熱塩加納小学校　五年　猪俣　大地

ぼくが農業科の中で一番好きな行事はしゅうかく祭です。好きな理由は、主に三つあります。

一つ目の理由は給食を食べるのが好きだからです。ぼくたちの給食は、化学肥料を使わずに育てるオーガニック野菜で作る給食が有名で、ヒメサユリ米のご飯が美味しくて、大好きだからです。しゅうかく祭では、六年生が作ったサツマイモと五，六年生が作ったお米で作りました。これがほっぺたが落ちるほどおいしかったです。

二つ目の理由は、自分で作ったご飯が食べられることです。一生けん命作ったご飯は流した汗、一つぶ一つぶが実ったようでうれしいからです。そして自分たちが作ったご飯が美味しいとうれしいからです。

三つ目の理由はぼくの夢が農家だからです。ぼくが農家を目指す理由は二つあります。

一つ目はおばあちゃんが農家なことです。おばあちゃんが作った野菜やお米が美味しくて、「自分もこういうのを作りたい」と思ったことです。

二つ目の理由は自給自足をやってみたいからです。今年の夏には、ミニトマト育てました。しゅうかくして水洗いして食べたミニトマトはものすごく美味しくて、うれしかったです。ぼくは、化学肥料などを使わずに、お米やトマト、レタスなどを育てたんいです。そして自分が作ったおいしいお米を食べたいです。

そして、いろいろな人に買ってもらい、美味しいといってもらいたいです。また最先たんのロボット技術を使って育てた、安くて美

味しい野菜やお米を地域の子ども達に食べてもらいたいです。そうすれば環境にもやさしく食べ物を育てることが出来ると思います。これらの理由で、ぼくはしゅうかく祭が好きです。今年は六年生が主体となってやってくれましたが、来年はぼくたちがやる番なので、一生けん命やっていきたいです。

## 思い出の農業科

熱塩加納小学校　六年　荒川　怜音

「このさつまいもご飯おいしい。」

ぼくは、縦割り班の下級生に言われたこの言葉を聞いて、とてもうれしくなった。なぜなら、ちゃんとさつまいもご飯ができるのか不安だったからだ。

ぼくたち熱塩加納小の六年生は、四月からもち米を作る活動をした。正直、「農業科いやだな」と思っていた。だけどぼくは、今年も農業科の活動を行った。どの活動もつかれたけど、一生けん命に行った。四年間続いた農業科の活動も終わりの時期に近づいてきた。その活動をふり返ってみると、農業科支援員さんは、なぜいつも手伝いに来てくれるのか疑問に思った。よく考えてみた結果、農業科支援員さんは、ぼく達のために手伝ってくださっていることに気が付いた。「ありがたいことだな」そう思った。

今年度の農業科では、みんなでさつまいもご飯を作って収かく祭をしようと決めていた。「これで、小学校の農業科が終わる」そんないろいろな気持ちをこめて作ったさつまいもご飯は無事に成功した。本当はさつまいもご飯を地域の人がとりに来る予定だったけど、雨だったこともあり、とりに来る人はいなかった。それでも、お世話になった農業科支援員さんや、農業科を手伝ってくださったＪＡの方々などが来てくれて、全校生といっしょに、みんなでさつまいもご飯を食べた。

みんな

「とてもおいしいよ。」

と言ってくれた。

今年度が小学生の最後の農業科だったけど、いろいろな人たちの協力で、いろいろなことを知れて、とてもいい勉強になったと思う。農業科のおかげで、農業の楽しさを知れたし、何よりも、農業科支援員さん達の大変さや優しさも知ることができた。

大人になっても、小学校で知った農業科のことについて、少しでもつなげることができるいい機会だったと思う。

ありがとう。農業科。

## お米のありがたみを知って

堂島小学校　六年　髙久　桜子

私は、農業科活動を通してお米を育てる難しさや、ありがたさを学びました。特に、お米を育てるときは、支援員の方や保護者の方たちと協力してできるのが良いなと思いました。

今年は最高学年として班をまとめたり、教えたりしました。去年までは教えてもらうという立場だったけど今年は「教えてあげる」という立場で大変でした。一番大変だったのは、田植えです。農業科活動は初めての一年生にいろいろ教えました。まず一つは、線をふまないで、交わったところに植えることです。もう一つは、十字に二～三本のなえを植えることです。こうして教えたことは、実際に私も教えてもらったことでした。そこから、次へ次へと受け継がれているなと感じました。

また、ニュースなどでお米の高騰やそれによって起こされる影響をたくさん耳にしました。お父さんやお母さんも、「えっ！そんなに」と驚いていました。そして、私もお米は「貴重な物」と少しずつ思うようになりました。また、今年は暑い日が続いたせいで、できがあまり良くないと、ニュースでも言っていました。私たちの学校のお米も、去年と比べるとあまり実っていないようです。そのようなことから、「自然の力」というものを感じました。もちろん、お米があまり取れなくなったら、もっと値段が上がったり、食べれる量も少なくなると思います。なので、お米を大切にして、あたり前の事ではないと思いながら生活したいと思いました。

最後に、お米を育ててくれた人、そのお米を買ってくれるお父さん、お母さんに感謝したいです。

## はじめての農業

塩川小学校　三年　瓜生　莉央

わたしは、小学校に上がるまで、農業は、おじいさんやおばあさんなど大人がやることだと思っていました。でも、学校の農業科で、農業は子どもでもできるんだ、ということが分かりました。三年生になって、はじめての農業科で一番楽しかったことは、カボチャをしゅうかくして、みんなでカボチャケーキを作ったことです。

まず、五月に苗植えをしました。わたしは、カボチャの苗を見たことがなかったので、きょうみしんしんでした。カボチャの苗は太くて、くきや葉っぱがチクチクしていました。

九月の終わりに、しゅうかくに行きました。今年は、お天気がとてもよく、雨が少なかったので、カボチャの多くはかれてしまったようでした。でも、その半分をみんなでしゅうかくしたら、思った以上に取れました。自分では一個も取れなくて少し残念でした。しゅうかくした後にはみんなで草むしりをし、つるを運んで、畑の後かたづけをしました。たくさんのつるや草で思ったよりも大変でした。

学校に持って帰ったカボチャで、みんなでケーキを作りました。作り方はかんたんで、びっくりしたけれど、じっさいにやってみると、これもけっこう大変でした。できたケーキをみんなで食べたけれど、わたしはやっぱりカボチャが苦手で少し残してしまいました。でも、家に持ち帰って妹たちに食べてもらうと、おいしいと言ってくれました。うれしかったです。

農業科を学習して、農業では色々な人が協力して作っているということが分かりました。三年生がみんなでやっても大変だったのに、おじいさんやおばあさんで一人でやっている人はすごいな、と思いました。だから、これからも食べ物を大切にしていきたいです。今後も、農家さんの気持ちを考えて、苦手な食べ物でもがんばって食べようと思います。初めての農業は、とても楽しかったです。

## 協力と成長

塩川小学校　五年　湯浅　莉茉

私達五年生は、お米を育てることにちょう戦しました。私のおばあちゃんは、お米を育てているため、手伝いをしたことがありません。でも、一年を通して育てるのは初めての経験でした。友達と協力することで成長することができたと感じました。

手で田植えをするときは、長ぐつをはいて植えるのかと思っていたら、素足で田んぼに入ったので、とてもびっくりしました。ヌルヌルしていて、気持ち悪かったです。しかし、足がどんどんしずんでいく感覚が面白くなり、じょじょに楽しくなりました。苗の高さは、十二センチメートルくらいでした。

数ヶ月が経ち、様子を見に行ってみると、田植えをしたときよりも少し背が高くなり、稲の本数も増えていました。でも、穂がついたお米にはほど遠くかったです。また数ヶ月が経つと、高さはなんと二十センチメートルくらいになっていました。さらに、穂がついていて、稲の本数も倍になりました。しかし、まだ緑色のところがあり、稲かりはもう少し先だったので、待ち遠しかったです。風がふくと、稲がゆさゆさと音を立ててゆれていて、秋が近づいているのだなと感じました。

ついに、稲が黄金色になり、稲かりをしました。

かまを使ってかりながら、ペアと協力して稲の束をつくり、運びました。おばあちゃんの家では機械で作業をしていたので、自分の手で運ぶときは重くて大変でしたが、かまでかる作業はとても楽しかったです。

収かくしたお米を使って、家庭科の調理実習をしました。ガラスなべでご飯をたきました。あわがふきこぼれそうになったり、少しこげてしまったりしましたが、自分達で育てたお米は、甘くておいしかったです。

お米を育てて調理するまで、長い時間がかかりました。友達と協力したり、観察したりすることで、稲の成長と同じように、自分も成長することができたと感じました。

## がんばって作ったカボチャ作り

姥堂小学校　三年　中川　詩花

わたしたち二・三年生は、農業科の学習でカボチャを育てることにしました。カボチャのなえを六月に四つ植えました。ギザギザがついた小さなかわいい葉っぱでした。

「うまくそだちますように。」

と、おねがいしました。

今年の夏はとても暑くて、サツマイモやカボチャが大きく育つのかと心ぱいしました。

「暑い夏だけど、がんばれ。かれないでね。」

と、言いながら水をあげました。

夏休みが終わってから畑へ行ってみました。サツマイモは、何本かかれていましたが、カボチャの葉はわさわさと広がっていました。

「カボチャってつよいなあ、暑さに負けないんだな。」

と、うれしくなりました。九月をすぎると葉はどんどん大きくなって広がっていきました。葉のかげから、小さなカボチャがたくさんなっているのを見つけることができました。

「かわいいな。どのくらいまで大きくなるのかな。どうやって食べようかな。」

と、楽しみになってきました。

十月になり、カボチャのしゅうかくをしました。畑に行く度に大きなカボチャがゴロゴロみのっていました。十月末までに、全部で九十二このカボチャをしゅうかくしました。家にもって帰ったり、農業しえんいんの先生や学校の先生、サツマイモほりにきた子ども園の子どもにあげたりしました。みんなにこにこわらって

「おもいなあ、いっぱいできたね。」

とよろこんでくれました。

「カボチャを作ってよかったなあ。」

と思いました。

学校では、カボチャカレーを作って食べました。

「カボチャがあまくておいしい。」

と、思いました。カボチャがどんどん大きくなっていく様子をかんさつして、食べものを大切に食べようという気持ちをもてました。

## さつまいもを作って

駒形小学校　四年　吉井　絢音

わたしは今年、さつまいもを作った中で農業の大変さを知りました。その中で、大変そうだなと思ったことは、三つあります。

一つ目は、植え方です。わたしは一年生のころは、植え方に種類はないと思っていました。けれど、農業科しえん員さんから植え方には、船ぞこ植え、すい直植えなどの種類があると聞いておどろきました。四年生になってもさつまいもを作るのは大変でした。それを農業科しえん員さんは覚えて作っていることがすごいと思い、また、大変だったのではないかと思いました。

二つ目は、水やりです。わたしは今年、あまり四年生と水やりをしていませんでした。水やりをする時、少なめや多めにやるなど量があるのでむずかしいし、大変です。わたしたちが畑に行ってない時にわざわざ農業科しえん員さんが畑に行って水やりをしてくれていたのがありがたく感じ、わたしたちが行ってない時のさつまいもの世話を農業科しえん員さんがやってくださっているので大変そうだなと思いました。

三つ目は、ほり方です。わたしは家でもさつまいもほりをしたことがあります。だから、あまりこまったことはありませんでしたが、わたしが苦戦したことがあります。それは力かげんです。力を入れすぎるとさつまいもが折れてしまうので、むずかしいと思いました。ちょうどいい力を入れてほるようにできたのが、三年生からでした。もう少し早くできるようにするのは、大変でした。これで本当に農業の大変さを知りました。

わたしは、この四年間でいろいろな農業の大変さを知りました。来年からは、米づくりをがんばっていきたいです。

## サツマイモ作り

山都小学校　四年　高橋　麻那

三年生のときは、あまりサツマイモがとれなくて、とてもざんねんでしたが、今年、

「おいしいサツマイモを育てましょう。」

と、生江先生がおっしゃいまし

た。わたしは、たくさんとれるといいなあ、どうすればよいのかなあと思いました。
　農業しえん員さんが教えてくれるので、安心して、楽しみになりました。
　サツマイモの苗を植えるとき、ねっこがなかったので、大丈夫かと心配になりました。苗を船のそこのようにねかせて植えたときにたっぷり水をあげないとかれると教えてもらったので、一生けんめいに水をあげました。植え方がねているみたいでおもしろいと思いました。
　草むしりに行った時、草に負けないくらいくきが伸びていました。ハートの形の葉もたくさんありました。
　サツマイモを助けてあげようと思って本気で草むしりをしました。手がどろだらけになって、汗がだらだら流れましたが、みんなでがんばりました。草のねっこがぬけなくて、本気で引っぱると、しりもちをついてしまいました。おもしろくて、友だちと笑いました。
　なかなか終わらなくて、大変でしたが、みんなとやったので楽しかったです。それに、
「やっと終わったね。つかれたね。」
「冷たくて、おいしいね。」
と話しながら飲んだ麦茶がすごくおいしかったです。
　この間いもほりをしました。
　ねこのしっぽみたいないもやかぼちゃみたいにくっついたいも、といろんないもがあっておもしろかったです。たくさんとれすぎておもしろくて楽しく大変でした。
　これから、食べるのが楽しみです。
　しえん員の皆さん、おせわになりました。

## 農業科の学習

山都小学校　五年　霜鳥　柳香

　私は、農業科の学習で二つのことに取り組みました。一つ目はお米作りです。会津農林高校に行って、田植えと稲刈りをしてきました。まず、田植えを体験したときに、今は機械でやることがほとんどだけど、手で直接植えてドキドキしました。また、その体験ができるってすごいと思いました。田んぼに入ってみたら、とてもねちょねちょしていて、不思議な感しょくでした。おわったあとに足を洗うのが大変で、農家さんたちは、すごく大変なことを毎年やっているんだなと思いました。
　十月には稲刈りをしました。稲を刈ることは意外とかんたんで、とても気持ちよかったです。ただ、かまの使い方が難しくて、高校生のみなさんに正しい使い方を教えてもらいました。
　社会科の学習で、最近、農業をやっている人が少なくなっていると学習していたので、こんな風に、みんなのために作物を作ってくれている人たちは本当にすごいなと思いました。また、むらせ工場に見学学習にいって、刈ったお米がどうなっていくか知ることができたので、私たちが刈ったお米も工場に行ったのかなと思うとうれしい気持ちになりました。
　二つ目は、学校でのカボチャとスイカ作りです。畑に苗を植えてから、定期的に草むしりをしないといけないのが大変でした。八月に収穫に行くと残念ながらスイカは動物に食べられてしまってました。幸い、カボチャは無事に大きく育っていて、安心しました。農家さんたちは、私たちのスイカのように、動物に作物を取られないために、ちゃんと対策をしているんだなと思いました。農家さんたちの日々の努力を感じました。
　今年の農業科の学習は、みんなで協力してたくさんの事を学ぶことができました。来年もできることを進んでやっていきたいと思います。

## どりょくのつまったとうもろこし

高郷小学校　三年　橋谷田爽太郎

　ぼくは、とうもろこし、かぼちゃ、にんじんを育てました。一番心にのこったのは、とうもろこしです。なぜかと言うと、ぼくが好きな野さいだからです。そして、とうもろこしでポップコーンができると知ったからです。
　五月にたねまきや、なえ植えをしました。あなざわ先生に教えてもらいました。あなざわ先生に教えてもらったことは、
「土は、ふとんのようにかけるといいよ。」
と、教えてもらいました。ぼくは、野さいがじょうぶに育つように自分ができることをがんばろう

と思いました。次の日から、朝の時間、水やりへ行きました。ぼくは、

「いつになったら、めを出すのかなあ。」

と、思いながら水やりをしました。それから農業科で草むしりをしました。一週間後、水やりに行った時に、なんとめが出ていました。ぼくはびっくりしました。ほかの友だちもびっくりしていました。そしてしゅうかくの九月、いよいよこの日がきたかあと思いながらしゅうかくしました。めの時よりもくきが大きく実もついています。実を一つ取って葉をむしり、実の中を見ると黄色できれいでした。一週間たって、ためしにポップコーン作りをしました。しかし、やってみると、ふくらみが小さく、ぼくの知っているポップコーンではありませんでした。先生に聞くと、乾そうが足りなかったそうです。このしっぱいから、十一月までほしてまつことになりました。

そして十一月。フライパンの中で一つぶ一つぶはじけて、大きくふくらみました。わた雲みたいです。わくわくしました。音もパチパチしていて楽しかったです。ほぞんしておけばいつでも食べられます。大せいこうでした。

自分で育てた野さいはとてもおいしいです。水やりをしないと、元気がなくなることや土はふとんのようにかけることも学びました。なんだかぼくたちとにていると思いました。また野さいを作る時は大切に育てたいです。

## 農業科で学んだ感謝の気持ち

高郷小学校　六年　中島　柚羽

「先生、今日の農業科は何をやりますか。」

「今日は、畑に肥料をまいて耕します。」

私は農業科について学ぶと共に、感謝の気持ちを学びました。

六年間の農業科で、共通していることが二つあることに気づきました。

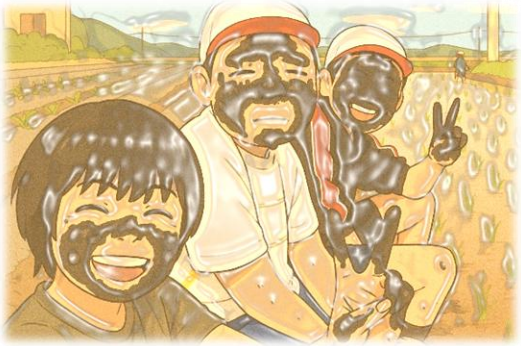
一つ目は、土と水と日光があることです。これはあたりまえのことのように感じますが、この自然はとても特別です。最近は、木を切っているのをよく見かけます。昨年度までは木がじゃまだから無くした方がいいと思っていました。でも、六年生になってから、この生活は木があることで支えられていると授業の時に学びました。木があるためには土が必要だし、水が必要だし、日光が必要です。このことは五年生の頃の理科で学びました。私の住むこの高郷町はどの木も大きく立派に育っています。そのような場所で農業を出来ていると考えると、自然には感謝の気持ちでいっぱいです。

二つ目は、人です。農業科支援員さんや学校の先生方には特にお世話になりました。私は野菜やお米を作る説明を聞いていて、植えるのも収穫も簡単そうだなと思っていました。だけど、何㎝おきに植えるとか、ここまで掘ったら抜くとか、何ヵ所かやるだけでつかれきってしまいました。そう考えると、農家の人達はすごいなと思いました。その時間をかけて作った食べ物を無だにしてはいけないと改めて感じました。そして、その大切さを教えてくださった農業科支援員の方や学校の先生方に感謝です。

この六年間の農業科を経験して、豊かな自然や支えてくれた人、農家の方々への感謝を忘れないで、あたりまえに食べれるんじゃないと考えながら、毎食の、

「いただきます。ごちそうさまでした。」

に気持ちを込めたいと思います。そして、自分が出来ることから、農業に関わっていきたいです。



## 【学校推薦】

### がんばったかぼちゃ育て

第一小学校　四年　遠藤　琴巴

私は、四年生の農業科の学習で、いっしょうけんめいにかぼちゃを育てました。かぼちゃを育て始めたときの目あては、大きなかぼちゃにして、おいしく食べることでしたが、だんだんと育てていくうちに、かぼちゃへの気持ちが変わっていきました。

六月中旬に小さなかぼちゃの種を植えました。まだ、夏だったので水をあげると気持ち良さそうにきゅうしゅうしていきます。このころは、かわいいな、早く大きくなれ、という気持ちがありました。八月末に、手のひら半分くらいのつぼみができ、ところどころに花もさいていました。このときは、もうそろそろで実ができるのかな、と思っていましたが、十一月上旬に畑に行くと、われているかぼちゃ、虫に喰われているかぼちゃなど、悲さんな事故にあっているかぼちゃがほとんどで心に穴が空いた気がしました。でも、しゅうかくすると、茶色いかぼちゃ、黒っぽい緑のかぼちゃがあっておもしろかったです。

反省点を考えると三つあるかもしれません。一つ目は、休み時間に様子を見に行かなかったことです。二つ目は、虫がいたらはらうことぐらいできたはずでした。三つ目は、草むしりのときです。かぼちゃのつるが、トゲトゲしていて、やりたくなかったんだと思います。これらの私たちのやりのこしのせいでぎせいにしてしまったと思います。

最後に先生から、

「ミミズは、土の中のび生物をとってしんせんな土にしてくれるんだよ。」

ということを聞き、ミミズは土の中のそうじ屋さんで、かぼちゃをよくしてくれるんだなと思いました。

このように、愛情とミミズがいれば、甘くておいしいかぼちゃが出来上がるんだなと思いました。私も何か一つ命つきるまで大切に育ててみたいです。

### バケツ稲の成長

第一小学校　五年　遠藤　新歩

ぼくは今年、農業科でバケツ稲を育てました。種をまき、水をあげたり、どうやったら大きくなるのかを調べたり、いろんな工夫をしながら、一生けん命みんなで育ててきました。手を土に入れてまぜたり、水を調整したり、愛情と手間をかけて育てました。みんながいやがる作業も協力してこなしていきました。

その結果、むずかしいと言われていたバケツ稲にほがつきました。総合の時間にいろんなことを調べて、自分たちでできることを考えました。みんなでやったその努力が良い結果につながったのだと思います。

夏休みは、先生たちが水をあげてくださったそうですが、ぼくも、家で心配していました。夏休み明けに、大きく育っているのを見てうれしかったです。そして、九月ごろには、少しずつほが出てきました。稲の小さな白い花も、初めてじっくり見ました。ここから、茶色っぽくなっていくのかな、と楽しみでわくわくしました。

そして十月に、本当にお米が実りました。おどいたことは、実が大きくなっているし、くきや葉がパサパサになっていたことです。前は緑色でパサパサではなかったけれど、急に変わっておどろきでした。

一年かけて育ててきて、農家の人がどれだけ大変なのかわかった気がしました。ですが、農家の人はとても大きな田んぼで育てているので、何十倍も、何百倍も大変だし、売るために、上手に作るのは、とてもすごいと思います。いつもその米を食べているので、感謝して食べたいです。

これからも、米を作ってくれる人達のことをわすれずに、感謝しながら米を食べたいです。自分達が作った米も、水をあげてくれた友達や先生達などにも感謝しながら、米祭りでは食べたいです。

### バケツ稲づくりを通して

第一小学校　五年　新井田紗衣

「バケツで稲づくり出来るの。」と私は最初思っていました。なぜなら、田んぼで稲をつくるのはわかっていたけど、バケツで稲がつくれることを聞いたことがなかったからです。今年は初めてバケツ稲づくりをしました。活動の中で一番印象に残っていることは、苗の移しかえです。

苗の移しかえの活動では、農家さんの大変さがよくわかりました。なぜなら、種まきなどは、機

械で作業ができるけど、苗の移しかえは、手作業でしなければならなくて、バケツ一つ分でも大変なのに、田んぼ全体その作業をするなんて、大変なことだからです。バケツ稲づくりを経験して、お米をつくるためにどのような対さくをしているのか気になりました。

調べると、台風対さく、スズメ対さく、病害虫対さく、水温管理をしていることが分かりました。おいしいお米をつくることはかんたんではなく、たくさんの対さくをして育てているんだなと思いました。

農業を経験して、毎日おいしいお米が食べられることは、あたりまえではないということを感じました。お米をつくるには、たくさんの時間がかかり、大変なので、わたしはこれから、食品ロスを少しでもへらしたいと考えました。だから、食品ロスを少しでもへらすために、好ききらいをせず、苦手なものでもがんばって食べるなどいろいろなことにあきらめずちょう戦してみようと思いました。また、しょう来、野菜などを育てるときに、この学習を生かしたいと思いました。

## 農業科で学んだこと

第一小学校　六年　長谷川　優菜

私が今年の農業科で学んだことは主に二つあります。一つ目は、みんなに支えてもらっていることです。私達がラベンダーを植えた後、放課後などに先生方が水やりをしているのを見て、かげで支えていてくれる人のおかげで、たくさんきれいに育ったと思うので、支えてもらっていることを知りました。二つ目は、最後までやりきるということです。私は植えるだけで終わりだと思っていたけど、干すところまでやって達成感もあったし、ここまでやるんだと大変さも知りました。

これからの農業科の授業でやってみたいことは、色々な野菜を育てることです。そして自分達で作った野菜で調理実習をしてみたいです。なぜなら、気軽に食べている野菜に対しての苦労や、感謝の気持ちを知ることができるからです。

農業科で私が楽しいと思うところは、二つあります。一つはみんなが笑顔になることです。例えば、五年生の米づくりのときに感謝の会で自分達で作ったお米を食べて楽しくなったからです。二つ目は、みんなで協力できるということです。私は一人で行動するより、みんなでやる方が達成感もあるし、一致団結できた気がするからです。

私達は毎日、何かを食べています。これは他の生き物の命を頂いて食べているのと同じです。命を頂いていることを当たり前と感じないで、私達は命で支えられているので、「いただきます。」「ごちそうさまでした。」と毎日感謝して食べようと思いました。

私のおじいちゃんは農家をやっています。そのお米を私の家ではもらっています。今、お米はとても高くなっているのでその中でお米を作ってくれるおじいちゃんには感謝しかないです。

おじいちゃん、いつもありがとう。そしてこれからもよろしくお願いします。今度は私も手伝いをがんばるからね。

## 農業科で初めて知ったこと

第二小学校　三年　野辺　千彩

三年生になって初めて農業科の勉強をしました。わたしたちはポップコーンと大根をそだてることにしました。ポップコーンと大根を育ててみて、学んだことや気づいたことでとくに心にのこったことを、三つしょうかします。

まず大根のたねを植えました。大根のたは赤むらさき色の小さなつぶです。丸ではなく平べったいところと丸まっているとこあります。植える時はさいしょは一こ植えました。そしたらかれてしまってとてもざんねんでした。失敗したのでもう一回二こ植えました。そしたら成長してのびてきました。二つ植えたので二つ芽が出ました。その後二つ同じ場所で育ってしまうとかれてしまうので、間びきをしました。虫に食べられていて成長がおそそうな方をぬきます。ぬいた葉は小さい手のひらサイズで下の白い部分は、大根のにおいがしてびっくりしました。

次に、水やりをしました。さいしょはとても小さかったけど、毎日水やりをして育てたら成長しました。さいしょかれてしまった理由は、水やりが足りないからだと思います。わたしは水やりが大切なことを知りました。今度は水やりをします。なぜ水やりをしないとかれてしまうか知りたいです。今度調べたいと思います。水やり

ってしないとかれると言うことをみんなで学べたと思います。
さいごに草むしりをやりました。水やりをしても、草むしりをしないとダメになっちゃうと思います。草むしりは小さいのはぬけやすくて大きいのはつるつるしてぬけぬくくて、何人かできょう力しないと、ぬけませんでした。わたしはきょう力してやりました。農業科はたねまきや、水やり、間びきや、草むしり、色々なことがあってそれもしつつ、植物や食べ物を育てることを知りました。四年生になったらたまねぎや野さいを調べて、植物や食べ物を、じっくりかんさつしていろいろなことをたくさん知りたいです。

## しゅうかくと調理

第二小学校　四年　立川　晶悠

今年は、前に育てた里いもとポップコーンのしゅうかくをしました。
ポップコーンは、しゅうかくする時に、少し時期がおくれていたのか、虫がポップコーンをとても食べていました。ぼくは 大の虫ぎらいだったので、ぐん手をつけていてもさわりたくありませんでしたが、がんばって虫がついていなさそうなポップコーンをさがして、しゅうかくをしました。里いもは、あまり虫がついていなかったので、しゅうかくするのも少し楽でした。
次に、ポップコーンのつぶを取りました。取る時も、とても小さな虫が出てきて、とてもおどろき、ついさけんでしまいました。そして、待ちに待った調理実習でしゅうかくした里いも、ポップコーンを調理しました。
まずは、なべに、火を入れて、中に里いもを入れて、ゆでました。ぼくは、ゆでる料理をした事がなかったので、とても楽しみでした。
そして、数十分里いもをゆでて、里いもをなべから取り出し、里いもをさましました。この時てんでは、なぜか少ししょう油らしきにおいがしました。そして、皮をむき、包丁で里いもをうすく切りました。少し太く切ってしまいましたが、「まぁたぶんおいしいからいいだろう。」と、思いました。そしたら、フライパンに油を引き、うすく切った里いもを、フライパンの中に入れました。この時は、もうワクワクが止まりませんでした。後は焼き色がついたら取り出し、塩をかけて里いもチップスを完成させました。
この後、ポップコーンも作り、みんなで食べました。やっぱり、みんなで作るとがんばった分とてもおいしかったです。
この学習を通して、みんがで協力することが大切と分かりました。農業だけではなく、算数や国語などでも、調理実習の時のように、みんなで協力して、じゃ業をしたいと思います。

## お米の学習を通して学んだこと

第二小学校　五年　齋藤　惟月

ぼくは今年、農業科の授業で米づくりについて学びました。毎日あたり前に食べているお米がどのように育っているのか知りたいと思っていたので、この学習が楽しみでした。実際に学んでみると、思っていたよりもたくさんの手間がかかっていることが分かり、農家の人たちが努力して作っていることも分かりました。
まずぼくたちは、田植えをするためのいねを育てるために種まきをしました。どんどん大きないねに育っていき、それだけでもだいぶたっせい感がありました。
五月ぼくたちは田んぼに行き、田植えをしました。いざ、田んぼに入るとどろの感しょくは、「ぬめっ」としてひんやりしていました。最初はこわかったけれど、みんなで田植えをしていくうちになれていき、最後は楽しかったです。
田植えの後も観察に行って、少しずつお米の実も見えてきました。ぼくたちは、
「早く食べたいな。しゅうかくしたいな。」
と思っていました。
夏になるといねがどんどん成長するので、水量を調節したり草むしりをしないといけません。ですが、草むしりや水の調節は、農業科支援員の先生にやってもらいました。本当はぼくたちがやらないといけないことをやってくださっていたのでとても感しゃしています。
秋になり、待ちに待ったいね刈りの日がきました。黄金色に実ったいねを見た時はとてもこうふんしてうれしくなりました。かまでいねを刈ると重みが伝わってきて感動しました。とてもうれしかったです。

でも、お米を作る農家の人たちはこんなに大変なことを毎年やっているんだと思うと、いつも何気なく食べているお米一つぶから農家の人の努力と自然の恵みがあってこそなのだと思いました。そしてこれからもみんなで協力していろいろな野菜を作っていきたいです。

## メロンの成長日記

第二小学校　六年　加藤　幸之助

「本当にしっかりと育つのかなあ。」

今年度の農業科では僕の好きな食べ物であるメロンを育てると聞き、嬉しい気持ちがこみ上げてきました。しかし、同時に不安もありました。なぜなら、プランターで育てると聞いたところです。僕はプランターで作物を育てたことが一度も無く、枯らしてしまわないか心配でした。

いよいよ苗を植える日になりました。想像よりも小さい苗で少しおどろきました。みんなで協力して二つの苗を植えました。また、つるが巻き付きやすいように苗の周りに三本の支柱を立てました。これからどのように育つのかがとても楽しみでした。

メロンの成長はとても早いです。苗を植えてから三週間ほどで大きさが一メートルを超えました。そのため、つるが巻き付くものが支柱だけでは足りなくなってしまったので、みんなで協力してネットを張りました。また、水やりや追肥などの欠かせない世話もしっかりと行いました。順調に成長していました。

それからまた一週間後、受粉をしました。僕が花粉をつけたため花から大きなメロンが出来ると思うと、何だかわくわくしてきました。

それからも欠かさず世話をして、夏休み明けに離層という収穫のサインができていたので収穫しました。一週間ほど追熟したあとに、切り分けてみんなで食べました。切る前から甘い匂いがしていたので期待大でした。食べてみると、苗を植える前に予想していた味とは桁違いの甘さにおどろきました。世話をしていた分の全てが報われたような感じがしました。

これからも、農業科だけでなく、全ての活動にこの経験を生かし、全力で取り組んでいきたいです。

## 米作りの学習を通して

松山小学校　五年　齋藤　壮汰

今年の農業科では、米づくりをしました。ぼくはお米が大好きなので、とても楽しみな学習でした。

まず、五月に田植えをしました。はだしで田んぼに入ると水が冷たくて、どろの感しょくが不思議でした。なえを植える時には、たおれないように注意しながら植えていきました。ぶじに植えることができて、これからしっかり育ってほしいと思いました。

なえはぶじに植えることができたけど、どろで歩きづらかったせいか、転んで、どろだらけになってしまったのは、大変でした。

その後、六月にいねの様子を見に行きました。すると、田植えのときよりもすごく大きくなっていて、うれしかったし、早く食べてみたいと思いました。

十月にいねかりをしました。地面から近いところをかまで切り、ひもでしばってたばにして、かんそうさせるためにつるしていきました。この作業をしてみて、農家の方や農業科支えん員の方の大変さを感じました。

収かくしたお米は、食べていませんが、早く食べてみたいし、どんな料理にできるか楽しみで仕方ありません。

今年は、農業科の他に、社会科でも米作りについて学習しました。そこでは、昔の農業の様子について調べたり、今と昔の農業の様子を比べたりしました。今は機械を使いながらの作業なので、昔よりは手間が少なくなったと思います。それでも、米づくりにはたくさんの手間や努力が、必要です。

ぼくの、祖父も米農家をしています。力仕事が多くとても大変そうです。年も取ってきたので今回学習したことを生かして、祖父の手伝いができるようになりたいです。いつか祖父といっしょに作った米を食べることがとても楽しみです。

## 私が作ったお米

上三宮小学校　五年　庄司　優愛

私は四年生のときに、コンバインに乗って稲刈りをしたことがあります。収穫まで手伝いをしたお米はおいしそうでした。それが、私のつくったお米です。とてもキ

ラキラしていて、「できた。」という実感がわきました。
　そして、五年生になって、さらに米づくりをがんばることにしたのです。
　四月。種もみをまきました。大野とみまささんが、ていねいに優しく教えてくれました。とみまささんは、お米のことをよく知っていて、土は平らにしなければいけないことを何度も話してくれました。どうしてかというと、でこぼこだと同じように苗が育たないからだそうです。私が見ると、そのちがいはよくわかりませんが、米づくりに対するこだわりを感じました。
　五月。五年生になって初めてすじつけをしました。一人では、無理でした。そのときも、農業支援員さんが手伝ってくれました。泥がついて、足が重たくなりました。泥は生あたたかくて、気持ち良かったですが、足を見るとすごい事になっていました。転びそうになりましたが、なれてくると、スムーズになり、去年よりも早くしじつけが終わりました。そのあと、みんな田植えをしました。今年は転ばないでできて成長したと思います。
　私の家でもお父さんが米づくりをしています。手ではなく、機械で植えます。以前、友達とそのお手伝いをしました。実際に田植え機に乗って運転しました。ちょっとだけ曲がりましたが、楽しかったので、またやりたいです。お父さんに、
「まあまあだな。」
と言われましたが、うれしかったです。
　私の家では、キュウリと米を作っています。お父さんとおばあちゃんが育てています。
　私は、お父さんの米づくりを手伝って、引き継ぎたいと思っています。

## どんどん育つ黒豆

第三小学校四年　羽入　佳希

　私は、初めて黒豆をそだてました。そだてるのはかんたんでたのしいのかな、と思っていました。でもじっさいにやってみるとぜんぜんちがいました。さいしょに黒豆のたねをうえました。黒豆のたねは、ブルーベリーみたいでざらざらでした。
　次に、黒豆のたねをいれてから黄色いひもをはりました。そのひもは、中にキラキラなものがはいっていてそれを鳥がみるといやがってにげていくからはるそうです。
　やっていく中でけっこう大変だったことは、草むしりです。暑い中四年生で黒豆の近くの草むしりをやりました。夏は草がたくさんはえるので、あせをかきながらたくさんの草をがんばって取りました。そして、十一月の初めごろに黒豆を少し取って食べてみました。でもだいたいえだ豆でした。私は豆がにがてです。でもえだ豆を食べてみると、おいしかったです。やっぱり自分たちでつくるとおいしいのかなぁと思いました。大変なこともたくさんあるけど農業の仕事をしてじっさい自分で食べると、おいしいと感じました。黒豆を育てて分かったことは黒豆は栄養価が高いことです。黒豆には、タンパク質、食物せんい、ビタミンB群、ミネラル、ポリフェノールを豊富に含んでいます。植物性タンパク質は、脂肪分が少なく必須アミノ酸もバランスよく含まれており、健康志向の方に最適だそうです。
　これから黒豆を調理する時に、黒豆プリンを作りたいと思います。食べるのが楽しみです。

## 農業科で学んだ事

第三小学校六年　三浦　愛果

　私は六年間、農業科で学んだ事がたくさんあります。
　一つ目は、なえや種の植え方です。なえや種は、浅すぎたりすると風の影響などで育たなくなってしまう、という事を教えてもらいました。
「だいたい第一関節ぐらいかな。」と優しく教えてもらって、わかりやすかったです。
　二つ目は、米作りです。五年生の時に米づくりについて学びました。そこで、コミュタン福島に行って温暖化について学んできました。米が温暖化のせいでかれてしまい、そだたなくなってしまったりするので、さらなる品種改良が必要です。と教えてもらいました。
　三つ目は、農業科支援員さんの大切さです。休みの日も、水やりや草むしりをしてくれました。農業科支援員さんのおかげでおいしい野菜が食べれました。ありがとうございました。
　私が六年間農業科を学んで思っ

たことは、たいへんだけど育ったときに達成感があるということです。今まで、水が足りなかったり虫が食べてしまったり、温暖化の影響などで野菜が育たなかったことがたくさんありました。けれど、それを改良しておいしい野菜を育てて食べるということが達成感があっていいなぁと思うようになりました。このように思うようになったのは、農業科支援員さんのおかげです。農業科支援員さん、今までありがとうございました。

## 農業科をやって、学んだこと

関柴小学校　五年　中森　由奈

私は初めて田植えをやって、すごいと思ったことや気づいたことは、最初は、細くて小さな苗が、時間をかけて成長し、毎日食べているお米になるということです。植える前は小さかったのに土の中ではどんどん成長していって、植物ってすごいなと実感しました。農家の方が苗をまっすぐていねいに植えていく所を見て、かっこいいなと思いました。実際に苗を植えていくと、そろえてならべる事が思ったよりもむずかしく、農家の方はいつもこんなふうに、ていねいに作業してくださっているんだと分かりました。毎日食べているお米もこういう細かい作業のおかげで食べられているんだなと知って大切に食べたいと思います。そして、ごはんを食べる時に何も考えていなかったけど、たくさんの人の力や時間があって、お米ができているんだなと気づきました。これからは食べ物をむだにしないで、大事に食べたいと思います。

また、農家の方からお話を聞いたとき、田んぼの水の流れを調整したり、天気をよく見たりしながら育てているとして、お米づくりにはたくさんの工夫があることも知りました。私たちが毎日食べているものの後ろには、こんなに多くの努力があるんだなと思うと、もっと感謝したいという気持ちになりました。今回の田植え体験で、私は食べ物の大切さやお米ができるまでのくわしいことを知ることができました。そして、この体験で感じた気持ちを、これからも忘れずにいたいと思います。

## 農業科を通して学んだこと

熊倉小学校　三年　早川　晴あき

ぼくは、そう合の農業科の授業で、四年生といっしょに、里いもとえだ豆を育てました。何を育てるか決まった時は、どのように育つのか分かりませんでした。

えだ豆のたねは、みどり色で、丸くて、小さいたねで、里いもは、ちゃ色くて、しずくみたいな形で大きかったです。育てていく中で、どうすれば大きく育つか不安でした。しかし、農業科しえんいんさんたちのしえんのおかげで、植え方やしゅうかくの方法などたくさんのことを学ぶことが出きました。

しえんいんさんたちへの感しゃの気持ちがずっと残っています。学んだ事は、育てた作物をしゅうかくできたよろこびだけではありません。えだ豆はたくさん実がなったのですが、今年の夏の暑さで里いもがあまりとれなかったのです。自ぜんのきびしさを感じることができました。

しゅうかくした野さいは、全校生でいもに会で使いました。ぼくは、四、五、六年生が育ててお米を使い、おにぎりを作りました。

そしていもに会では、五、六年生が作ったいもじる、一、二年生が作ったいもさつまいももありました。いもじるは、五、六年生が時間をかけてむずかしい作業をしており、すごいなあと思いました。みんなでつくったいもじる、さつまいもは、あいじょうたっぷりでおいしかったです。野さいを育てて、しゅうかくをし、その野さいもみんなでおいしく食べることができて楽しかったです。その後に送ったしえんいんさんたちへのお手紙では、感しゃの気持ちが伝わってほしいです。

ぼくは、来年の目ひょうができました。しえん員さんに教えていただいて野さいの育て方を活かしてたくさん野さいがとれるようにすること。そして、お米を育てることです。

また、しえん員さんの力をかりて、おいしいお米を育てたいです。

そして、来年もみんなで協力し、楽しいいもに会にしたいです。

## えだまめを育ててみて

豊川小学校　三年　高橋　奏詩

わたしたちは、「味めぐり」という品しゅのえだまめを育てました。農業科の学習も、えだまめを育てるのもはじめてだったので、とってもワクワクしていました。

まずはじめにやったことは、土作りです。たいひを広い畑全体にまくのはたいへんで、終わった後はみんなヘトヘトでした。

六月。たねまきをしました。ポットに土を入れ、その上に、たねを二つ。おくに入れすぎるとめが出てこなくなるので、しんちょうにやりました。そこから、水やりをして大きくなったなえを畑に植えました。

夏休みが明けて、かんさつしに行くとえだまめの実がなっていました。一つのくきにたくさんの実がついていて、「こんなふうに実がなるんだ」とおどろきました。さわってみるとかたくて、さやにはふわふわした白い毛のようなものが生えていました。

それから一ヶ月、とうとうしゅうかくの日が来ました。農業科支えん員の細田さんと先生がスコップでほった後、友だちと力を合わせて引っ張りました。たくさんとれたので、くきと実に分ける作業も時間がかかりました。

しゅうかくしたえだまめはゆでたり、ずんだにしたりして食べました。豆の味がしっかりしていました。自分たちで育てたものは、苦ろうした分とてもおいしく感じました。支えん員の細田さんも「うまい。おいしいえだまめだ。かんぺき。」と言ってくれて、がんばってよかったなと思いました。

わたしはえだまめを育ててみてはじめて知ったことがたくさんありました。家でえだまめは食べたことがあったけれど、育てるための畑のじゅんびや実を分ける作業がこんなに大へんだということも、実のなり方も白い毛が生えていることも知りませんでした。

農業についてもっと知りたいと思ったし、農家の人たちに感謝しながら野さいを食べたいと思いました。

## みんなで育てた大切なお米

豊川小学校　六年　新国　小百合

私は農業科の学習で、お米を友達・学校や支援員の先生と一緒に育てました。農業には天候だけでなく、田おこしから始まり、たねや苗をどのように植え、除草や水の管理、収穫・脱穀・乾燥や精米まで沢山の工程があることを一つ一つ学びながら大事に育てました。

春のまだ少し肌寒い頃に、田んぼの泥の感触を裸足で感じ、キャーキャーと言いながら、黙々と草を取り、急に出てきた虫に驚きながら、稲刈り・刈った稲を乾燥させるために、稲を担ぎ稲架にかけて干し、精米まで友達と力を合わせながら実施しました。五年生までは精米したお米をみんなで食べて終わりでしたが、今年は違いました。

十月十八日、私達の学校では、豊かっ子発表会がありました。発表会終了後に開催されるバザーで私達のお米を販売することになりました。販売するために、できたお米を一袋に三合半ずつ詰め、袋のパッケージやチラシのデザインをどのようにするか話し合いました。そして、決まったデザインをシールに印刷し、印刷しても色が薄いところには、色鉛筆などで色をぬり、できたシールをお米の袋に一枚一枚貼りました。気が付くと、沢山のお米が入った袋が出来ていました。当日はお米を販売するために四班に分かれ、呼び込みをしたり、手渡しで売ったりしました。呼び込みをすると、お客さんが沢山並び、そこにお母さんもいました。あんなに沢山準備したお米が四十分くらいの間に完売しました。最後の一個が売れたときは、みんなで「すごい。全部売れちゃった。」と飛び跳ねて喜びました。

今年の農業科の学習で、初めて販売まで経験し、普段私の口に入るまで沢山の人の手が関わっていることを知りました。これからは、作ってくださった方々に感謝をしながら大切に食べたいと思いました。

## 人参大成功

慶徳小学校　五年　田部　成真

僕達は、農業科の学習で人参を育てました。

去年の五年生も人参を育てていました。でも、収穫した人参は細くて、中がスカスカで食べることができませんでした。だから、「人参づくりは難しそうだ。」と不安で

した。
　人参の種をあまり間を開けないでまき、肥料をまいてから、水やりをしました。次に来たときは、水やりをやってから草むしりをしました。抜いてもすぐ次の草が生えてくるので草むしりは大変な作業でした。少し人参が大きくなったところで、間引きもしました。
　そして夏休みに入りました。夏休みに入ったらとても暑くて家の近くの畑の土がカラカラにかわいていました。僕は自転車に乗って学校に行き、水やりをしました。
　夏休みが終わり、農業の時間に畑を見に行きました。人参の葉を見ると黄色になっていました。すると支援員さんが、「今年もダメかなあ。」と言いました。だけどみんなでできるだけやってみようと思いました。そして次の農業の授業で畑に草むしりに行きました。雨が続いていたので、地面がぐちゃぐちゃになっていました。そして次に畑に行った時、雑草がほぼすべて切られていました。支援員さんが草をかって下さったそうです。
　雨が続いて人参がくさったら大変だということになりました。人参に水があまり行かないように、僕達はみぞをほりました。そして収穫の日が来ました。雨が前日にふったけれど、みぞをほっておいたので、みぞの中に水がたまっていました。ほったかいがあったと思いました。そして、大量に人参が取れました。大きい人参がいっぱいあったので、うれしかったです。
　形のよい人参は収穫祭でカレーライスにして食べました。割れた人参は、細切りにしていたためものにしました。どちらもおいしかったです。
　次に人参を作る学年にアドバイスしたいと思います。

**はじめて育てたじゃがいも**

熱塩加納小学校　三年　宇内佑輝丸

　じゃがいもを作るのは、かんたんと思ったけど、今年じゃがいもを育ててみて大へんだと感じました。
　まず、でこぼこしているじゃがいもをめの数に気をつけて半分に切ることがむずかしかったです。これを手作業で行っている農家さんもいて大へんだと思いました。
　そのあと、切った種いもを土に植えました。三十センチメートル間かくで植えなければえいようがいきわたらないことを知り、大きなものさしで、一つ一つ計りながら植えました。おいしいじゃがいもを作るのにひつようなことだと知りました。
　つぎに間引きをしました。農業科しえん員さんに、
「間引きとは、小さい葉っぱをぬくことだよ。」と教えてもらい、
「せっかくでてきた葉っぱをぬいてだいじょうぶなのかな。」と心ぱいでした。しかし、じゃがいもが大きくなるためにひつような作業だと知りおどろきました。太いくきは残し、細いくきだけをぬきました。ぬくときは、太いくきがぬけないように、手でおさえながらぬきました。ぬくだけなのに、とても大へんでした。
　さい後に、じゃがいものしゅうかくをしました。スコップでほると、じゃがいもがきずついてしまうので、手でほりました。下までほらないと、じゃがいもが出てこなくて、手もこしもいたくてとても大へんでした。これを農家さんはやっていて「すごいな。」と思いました。
　じゃがいもを作るだけでとても大へんなことを知りました。また、いろいろなくふうをすることで、おいしいじゃがいもができることも知りました。
　来年は、どんなやさいを作れるのか分からないけど、やさいを作ることは楽しみです。

**農業科の楽しさ**

熱塩加納小学校　四年　園部　愛心

「暑いから、もうやりたくない
な」
　わたしたちは、今年の農業科でじゃがいもを育てました。私は、農業科があまり好きではありませんでした。でも今年の夏に、農業科が好きになったのです。それは、あることをしたり、あることを言われたからなのです。
　七月の暑い日に、じゃがいもの間引きと土よせをやりました。一かぶから四，五本出ているじゃがいもの芽を、二本ずつにへらすのです。これは、じゃがいも一つ一つにえいようをいきわたせるためです。その後土よせも行いました。「暑いし、軍手に土が入るし、みみずもいるし、もういやだな。」と思いました。でも周りを見ると、友達は文句も言わずにがんばっています。そんな友達を見て自

分がいやになりました。その時先生が来て、
「芽が上手にぬけたね。すごい。」と言われたことがすごくうれしかったです。
「なんかやる気が出てきたな。やっぱりがんばろう。」という気持ちになりました。
家では、おじいちゃんとおばあちゃんの農作業を手伝いました。すると、
「ありがとね。助かったよ。」と二人に言われて、またうれしくなりました。
八月にしゅうかくしたじゃがいもを家に持って帰って家族で食べました。
「おいしいね。」
「このじゃがいもは三，四年生で、がんばって作ったんだね。」と言われて、農業科が楽しくなりました。
九月には、しゅうかくしたじゃがいもをお客さんに売るマーケットをやりました。加納ゆうびん局のちゅう車場を借りました。はん売時こくの前から、お客さんがならんでいてびっくりしました。みんなでチラシやポスターを作り大声でよびこみをしたので全部売れました。それも楽しくて、また農業科が好きになりました。
祖父母を手伝った事ほめられた事で、野菜作りの楽しさを見つけることができました。

## 作物を守り育てることについて

堂島小学校　三年　辺見　光

わたしは、作物の命を守り育てることは、とてもたいへんだけど、楽しいと思いました。今年は、きびしい暑さがつづいて、畑の草むしりや、水やりは大へんでした。がい虫も作物をねらってやってきました。でも作物の育ち方をかんさつしたり、友達と話し合って、よく育つように世話をしたりするのは、とても楽しい時間でした。
そして、その作物をしゅうかくして、自分たちであじ味わうことができるようになったときやってよかったと思うことができました。
その中でも、いちばん心にのこったのは、大豆のさいばいです。次から次へと生えてくるざっ草をむしることをがんばりました。朝とう校するとすぐに、何ども、じょうろに水をくんで、水やりをしました。でも、そのわりには、ほんの少ししかとれませんでした。大豆のさやをひらくとき、しっかりした豆になっているかどうか、友だちとドキドキしていたのがわすれられません。
大豆は、とうふづくりに生かしました。とうふ作りの前の日に、水にひたしました。やわらかく大きくなった大豆をにたり、こまかくしてしぼったりして、おいしいとうふを作りました。むかしから、こうして、大豆をおいしく食べていたことにおどろきました。わたしは、自分たちでくろうして育てたものが、こうやって食べ物になって、人の口に入るのだなあと思って感動しました。食べた時には、うれしくなりました。またとうふを食べるときにかけたしょうゆも大豆からできていることに気づきました。わたしは、こんなに大豆が大切で役に立つ食べ物だといしきしたことは、ありませんでした。
今年、農業科の体けんをして、作物のいのちを守り育てることは、とても大事だと分かりました。作物のいのちは、わたしたちのいのちをささえてくれているからです。また来年も、楽しく作物を育てたいです。

## 苦手だったはずのかぼちゃが・・・

塩川小学校　三年　工藤　千聖

五月から九月にかけて、三年生のみんなと総合の授業でカボチャを育てました。カボチャを食べるのが苦手なので、苗から育てるのは楽しみだったけど、せっかく育てたカボチャをちゃんと食べられるか心配でした。
塩川小学校の畑に入るのは初めてで、最初にみんなで草むしりをしました。土はとてもやわらかく、苗を植えるための花をかんたんにほることができました。苗は想ぞうしていたよりも大きくて、少しくきがザラザラしていました。この苗から、どんなカボチャに成長するのか、楽しみでした。
九月にカボチャを収かくしました。大きくて重いカボチャもあれば、小さくてかわいいカボチャもありました。
収かくしたカボチャは、班で話し合いをして、クッキーにして食べることになりました。お菓子は大好きなので、「これならなんとか食べられそうだな」と、ほっとしました。
料理中は、カボチャが本当に美味しくなるのか心配していました

が、クッキーの形やにおいがとても美味しそうで、と中から早く食べてみたいという気持ちになりました。食べてみると、カリッとしていて、カボチャからこんな美味しいクッキーができることにおどろきました。

この総合の授業で学んだことは、苦手なものでも食べられることです。これからは野さいを作る人への、大へんさが分かったので、苦手な野さいもの残さずに食べるようにしたいと思っています。

## かぼちゃをしゅうかくしたよ

塩川小学校　三年　齋藤　絢音

私たち三年生は、カボチャを作りました。五月の終わりにカボチャを植えるとき、うねに草が生えないように、わらをたくさんしきました。そのようなくふうをすることを初めて知りびっくりしました。

そして、九月にしゅうかくをしたのですが、夏休みの間に、いねかりの時のいねの高さくらいに草がのびていて、たいへんでした。ざっ草をむしる作業が、手がいたくなって、つらかったです。みんなで草をむしって、ようやくカボチャが見えました。私たちが食べる食べ物を作ってくださっている人たちは、毎年くり返してこの大変な作業をしているのだと思うと、すごい人たちだなあと思いました。カボチャも、他の食べ物も、大切にいただかなければならないことが分かりました。

十一月十七日に、私たちのクラスは、育てたカボチャを使っていろいろな料理を作りました。私たちのグループは、かぼちゃのマッシュと、塩バターいためを作りました。学校の給食室で調理員さんにふかしていただいたカボチャをマッシャーやスプーンでつぶしているときは力がたくさんひつようで、とてもつかれました。でも、かん成して食べたときは、とてもおいしくて、「がんばって作ってよかったな。」と思いました。料理を食べていると、グループのみんなが、

「おいしいね。」

と言っていました。わたしも、とってもおいしいと思っていました。あまい物はとてもおいしかったし、しょっぱい味付のものは、わたしのすきな味で、たくさん食べることができてうれしかったです。

わたしは、カボチャ料理を作ってみて、また色々の料理を作ってみたくなりました。調理実習や、おうちで作ってみようと思います。今からとっても楽しみです。

## サツマイモ

塩川小学校　四年　湯浅　崇博

わたしたち四年生は、今年の農業科でサツマイモを育てました。六月にサツマイモのなえを見たときは、「こんなに小さいなえで、サツマイモなんかできるのかな」と思いました。植えるときには、ぼうを使って黒いビニールにあなを開け、手やスコップでサツマイモのなえを植えました。サツマイモの葉っぱはザラザラしていて、くきもザラザラしていました。しえん員の方には、サツマイモのなえを植えたら、上からやさしく土をかぶせるということを教えてもらいました。植えるときの黒いビニールにあなを開ける感しょくが気持ちよくて、おもしろかったです。

十月には、サツマイモほりをしました。つるが畑一面に広がっていました。わたしは、「つるは大きいけど、サツマイモの実は小さいのでは」と思いました。しゅうかくするときには、最初につるを切りべつの場所にい動しました。つるは大きくて長かったので、運ぶのは大変でした。しかし、みんなと運んだので、楽しかったです。つるをしょりし終わった畑を見てみると、黒いビニールからサツマイモが出ていました。予想とはちがい、サツマイモの実は大きくなっていました。あんなに小さかったなえがすごく大きなサツマイモになっていておどろきました。植物の力はすごいなと思いました。ほるときは、シャベルではなく、手で犬かきのようにほったほうがきれいにほれました。手はよごれたけど楽しかったです。ほったサツマイモはかわかしてから調理し、おいしく食べました。

サツマイモを育ててみて、植物を育てるのは大変だということに気付きました。学校の花だんも委員会の人たちが苦労していると思うので、これからも大切にしたいです。

みんなといっしょにサツマイモを育てたり、育てたサツマイモを食べたりしたことはとても楽しかったです。またサツマイモを育て

たいです。今度はもっと大きなサツマイモになるよう、お世話をがんばりたいです。

## 支援員さんの言ったこと

塩川小学校　五年　塚原　渉

ぼくたち、五年生は農業科の学習でお米を育てました。そこで、稲刈りをして考えたこと、感じたことを三つしょうかいします。

一つ目は、稲を刈るのが思っていたよりかんたんで、びっくりしました。稲刈りはもっときけんで大変なのかなあと思っていたけれど、支援員さんが言っていたとおり稲の上の方を持って下の方を稲刈りがまで切ってみると、とてもかんたんにできてたくさん刈ることができ、とても楽しかったです。二つ目は、田んぼに入ると、とても歩きづらかったことです。長ぐつをはいて田んぼに入ってみると田植えのとき、はだしで入ったときよりかは長ぐつをはいているので、ヌルヌルしなかったのが良かったです。ですが、稲を刈って、ペアの人に、稲をとどけるときに、どろがあるせいで歩くだけで体力が失われてとても大変でした。稲を刈っていると、たくさんの人がどろにはまっていて、大変そうだなあと思いました。

しかしぼくは運がよかったのか一回もどろに、はまりませんでした。ぼくは、どろに、はまらなくてよかったなあと思いました。稲を刈った後、田んぼから出てみたら、長ぐつがどろだらけで、とてもあらうのが大変でした。ですが、がんばってあらっていたら、どろが落ちて気持ちがスッキリしました。三つ目は、五月に植えたなえがとても成長したことです。五月に植えたなえはとても小さかったのに、稲刈りをしに田んぼに行くと、とても大きくなっていてすごいなあと思いました。

約四ヶ月だけでとても大きくなるなんて思いませんでした。

稲刈りをするときは支援員さんの言っていたとおりにすると安全にそして速く、稲を刈ることができるんだなあと感じすごいなあと思いました。これから、何かの野菜を育てるときは、支援員さんの言っていたとおりにして楽しく育てていきたいです。お米を育てるのは初めてだったのですが、とても楽しくてとても勉強になった農業科の学習でした。

## 助け合いのポップコーン

塩川小学校　六年　長島斗輝

「ポップコーンおいしかったな。」

ぼくは、農業科でポップコーンを育てました。ポップコーンはとうもろこしのばくれつ種という種類です。ばくれつ種は主にはじけるものを指します。そんなポップコーンは、僕が想像しているのと全くちがいました。

ポップコーンを育てているうちにぼくは気づきました。「何んか枯れてない」先生に聞いてみると「これは、かんそうさせているから大丈夫」と聞いて安心しました。一つだけとってみると、ものすごく固くてびっくりしました。友達が一つ、口の中に入れてかんでいたけどやはり固かったらしいです。ポップコーンはどんどん成長していき二メートルくらいまで育ちました。しゅうかくするときには二メートル十五センチぐらいでぼくはびっくりしました。そして、いよいよしゅうかくです。ポップコーンの実が百本くらいあつまりました。後は、くきなどをぬいていきます。ぼくも三本くらいぬけました。ぬくとき、爽快感がたまりませんでした。

少し日がたって十月ポップコーンの実の種を取るさぎょうです。このさぎょうも気持ちがよくなりました。ポロポロとれていくのがたまりませんでした。そしてなべに入れてはじけるのをまちます。パチパチとふくらんでいくのがカワイイなと思いました。食べてみると、ものすごくおいしかったです。少し苦くて甘い風味もあっておいしかったです。

ポップコーンを育てるにあたって支援員さんにも協力してもらって助けあいながら育てることを学びました。これからも助け合いを学校でもしていきたいと思います。

## 苗や種のふしぎ

姥堂小学校　四年　入岡　茉有佳

農業科の学習で、種や苗を植えて思ったことがあります。苗はそのまま植えてもそんなに枯れることもないし、時間をかけて育てなくてもすぐに生長するので、わたしは、種ではなくて、苗から育てればいいのかなと思っていました。

では、なぜ種があるのかや、種

とは何でできていて、何で育つのかなど、いろいろ考えてみました。ずっと考えていてもよく分からないので、調べることにしました。

種は、実の中にあります。それを育てると、また同じ植物や実がなります。でも学校でサツマイモやバジルなどを育てる時は、全部苗から育てました。

わたしは、なぜ種から育てないのだろうかと疑問に思いました。そもそも苗は、種を発芽させて、ある程度まで大きく育てたものでした。それは、種から育てるより、苗から育てた方がより確実に育つので、育てやすい苗にするまでは、専門の人に任せていたことが分かりました。すべて一人がするのではなく、役割分担をして、効率よく育てていこうとする人の知恵であることが分かり、感心しました。

秋になって、作物を収穫しました。サツマイモの大きなものは、みんなで分けて、家に持ち帰りました。家では、おばあちゃんがほしいもにしてくれました。サツマイモをうすく切って、あみでほしてかわかしました。何日かたつと、かわいて小さくなりました。やわらかくて、あまくておいしいほしいもができました。

野菜たちが、生長しようとしているのを人の知恵で手助けしていく。そして野菜が持っている力をいっぱい引き出し、おいしい作物にしあげていく。これが農家の人の力なのかあと思いました。

野菜の力と農家の力を合わせて、おいしい作物を作っていくことを農業というのだろうと思いました。

## みんなで協力した農業科

姥堂小学校　六年　東條　さくら

今回の田植えを通して、私が感じたことや考えたことは三つあります。

まず、一つ目は去年より田植えがうまくなったことです。去年は初めてで、泥に足を入れるのにも慣れず、ゆっくりとしたペースでした。でも、今年は二回目なので、苗をまっすぐ植えるコツがよく分かり、迷わずに進められるようになりました。そのおかげで、五年生に教えることもできて、とても嬉しかったです。自分が成長したことを実感し、自信を持つことができました。

次に、二つ目は農家さんの大変さが身にしみて分かったことです。私たちは一人一列ずつ担当したのですが、私はたった一列でも足腰に負担がかかり、その大変さを感じました。広大な田んぼをすべて田植えされる農家さんのご苦労を思うと、改めて感謝の気持ちでいっぱいになりました。普段何気なく食べているお米にも、たくさんの努力と時間がつまっていることを知りました。農業の厳しさを少しですが実感できた貴重な体験でした。

最後に、三つ目は小学校最後の田植えだったので、特に真剣に取り組めたことです。作業が終わった時には、みんなでやりきったという大きな達成感があり、「最高の形で終えられた。」と思いました。六年間を共にした仲間と泥まみれになり、一生けん命作業したことも、忘れられない思い出です。

そして、田んぼから収かくしたお米で調理実習をしたことは、本当に心に残っています。自分たちで作ったおかずと、みんなで協力して育てたお米を食べた時、「こんなにおいしいんだ！。」と感動しました。みんなで協力して作り上げることで、食べ物はおいしくなるということを深く知ることができました。

小学校最後の田植えや稲刈りを、こんなに良い形で終えられて本当に良かったです。この協力性を中学校でも生かし、色々なことに積極的に挑戦し、新しい学びや協力する大切さをこれからも見つけていきたいです。

## 野菜名人を目指して

駒形小学校　三年　古山　千夏

私が農業科の学習を通して、はじめて知ったことや大変だったこと、工夫したことなどたくさんあります。とくに、野菜名人になるためにがんばったことが四つあります。

一つ目は、畑の草むしりをしたことです。ピーマン畑は、たくさんざっ草が生えていて、とても大変でした。しかし、サツマイモ畑はうねとうねの間にもみがらやわらをしいたのであまりざっ草が生えませんでした。しえん員さんがやり方を工夫してくれたおかげです。ピーマン畑も工夫をすればざっ草が生えなかったのかもしれないと思いました。

二つ目は、ふなぞこ植えやすい

直植えなど、いろいろなサツマイモのなえの植え方があることを教えてもらったことです。なえを正しく植えることで、おいしいサツマイモつくることができるようになると思いました。

三つ目は、三年生全員で育てたジャガイモをしゅうかくするときに工夫したことです。ジャガイモが、きずつかないように、やさしく土をほりおこすことに気をつけました。三年生みんなでがんばったので、ジャガイモがバケツ一ぱい分とれてうれしかったです。

四つめはしゅうかく祭です。わたしたちの学校では、全校生が作った米や野菜を使って、カレーライスを作って食べるというしゅうかく祭を行っています。三年生は、はじめてピーラーを使って、ジャガイモやニンジン、サツマイモの皮をむきました。とくに、サツマイモは大きくて、いろいろな形があり、土がついている部分もあって、大変でむずかしかったです。でも、予定の時間より早く終わることができ、先生方にほめられたのがうれしかったです。

農業科で学んだことを生かして、来年は今年よりもたくさんの大きい野菜を育てていきたいです。

## 米づくりの苦労と達成感

駒形小学校　五年　芳賀　大河

ぼくは一年間の米作りを通して、改めて農業の大切さや、大変さを知ることができました。ぼくは米づくりで大変だったことが二つあります。

一つ目は、定板で線を引くことです。ぼくは今年初めて、定板で線を引きました。ほかの人が去年やっているのを見ていた時は、

「重い」

と言っていてどれくらい重いのだろうと気になりました。やってみると、意外と重くて大変でした。線を引くのもかしが少しずれてしまいました。けれど、支えん員さんに、

「少し右側に寄って。」

と声をかけてもらいながらなんとか線を引くことができました。

二つ目は、稲刈りです。今年は、稲刈りが二回目なので、去年よりスムーズにすすめられました。

稲をかまをつかってギコギコと切ることが出来ました。稲をたばねるのは、ゆるすぎると稲がでてしまうのでゆるすぎないように稲を束ねることが出きました。四束稲を切ったら、束ねるの作業をくり返して稲刈りをすることができました。

収かく祭でぼく達が作ったお米を食べて、

「おいしい。たくさんおかわりするね。」

と下級生が言ったり、

「おいしいよ。作ってくれてありがとう。」

と支えん員さんが言ったりしてくれて米作りをがんばってよかったなと改めて達成感を味わうことができました。

来年もお米作りをするので、来年も全校生に、「おいしい。」

「もっと食べたいな。」

「また食べたいな。」

と、言ってもらえるようなお米を作りたいです。

## さつまいもをほったよ

山都小学校　三年　大江　ひな

わたしは、さつまいもを三、四年生でうえました。

わたしは、さつまいもは、たねからできるとさいしょは思ったけど、うえるときにみたらすごいかたちだなと思いました。

うえるのも楽しかったけど、ほったのもとってもとっても楽しかったです。

ほるまえに、ようむいんの先生と学校の先生が草をかってくれてありがたく思いました。

ほるときは、みんなじゅんにほる人と、友だちとほる人もいました。わたしは、四年生の友だちとほりました。

さいしょわたしと、四年生のこのはちゃんとブラジルまでいくのかなと思いましたけど、けっきょくいきませんでした。けどみんな大きいのほりました。中には、さどがしまの形のさつまいもをほった人もいました。たくさんのいもがたいりょうにほれてうれしかったです。

友だちのもてつだって、仲のいい友だちと大きいの、中ぐらいの、小さいのをきょうりょくして楽しく、がんばりながらほりました。

さいごはみんなで、さつまいものうしろにたってきねん写真をとりました。そのときにみんな心の中でみんながんばったよねーっという心に、一しゅんだけなりました。

学校にかえって、シャベルと、スコップをもってきれいにあらっ

てかたづけました。
　またらいねんもやりたいなと思いました。ほんとうに楽しかったです。こんどは、なにをうえるのか、なん年生といっしょにうえるのかがたのしみです。また楽しいおもいでをみんなでつくりたいなと思います。

## しっぱいして学んだこと

高郷小学校　四年　石山　佳奈

　皆さんは、何か失敗したことは、ありますか。わたしは、野菜作りで、失敗したことがあります。その失敗のせいで育てた野菜を食べることができませんでした。とても悔しく感じています。失敗は、二つあります。
　一つ目の失敗は、水やりを忘れてしまったことです。わたしは毎日水やりをするように心がけていました。しかし、わたしはうっかり水やりを忘れてしまう時期がありました。そのために育てた野菜は元気をなくし、食べることができませんでした。そこからわたしは水やりの大切さを学ぶことができました。これからは今までよりも、水やりを絶対に忘れないようにしたいと思っています。
　二つ目の失敗は、動物へのたいさくをしなかったことです。動物といっても虫やけものからのひがいなど様々です。虫にも、けものにも、野菜を食べられてしまいました。そこで、今まではたいさくをしていなかったので、クラスでたいさくを考えました。
　そのたいさくとは、防虫スプレーを作り動物や虫が来ないようにすることです。その防虫スプレーの材料には、とうがらし、ニンニク、酢の三つが入っています。この三つは、動物が苦手なにおいをふくんでいるそうです。今、世の中では、けものによる被害がふえています。わたしが学んだことは、野菜づくりにかぎらず、生かせる知識だと思います。これからの生活に役立てていけたらいいなと思います。
　来年は、今年学んだ二つの失敗を生かして、野菜や植物をきれいに、おいしく育てたいと思っています。

## 令和７年度喜多方市小学校農業科作文コンクール審査会

**【特別審査員】** **（敬称略）**

| | |
|---|---|
| 関東学院大学理工学部　教授 | 佐藤　幸也 |
| 喜多方市教育委員会　教育長 | 佐川　正人 |

**【審査員】**

| | |
|---|---|
| 農業科支援員 | 山田　義人 |
| 福島県会津農林事務所企画部地域農林企画課・主任主査 | 一条　晶恵 |
| 福島県会津農林事務所喜多方農業普及所経営支援課・課長 | 星　源 昭 |
| 会津よつば農業協同組合喜多方営農経済センター営農振興課・課長 | 宮下　貴明 |
| 喜多方市産業部農業振興課・課長 | 誌高　文信 |
| 喜多方市立上三宮小学校・校長 | 大西　健夫 |

**【事務局】**

| | |
|---|---|
| 喜多方市教育委員会学校教育課 学校経営アドバイザー | 髙橋　弘悦 |
| 喜多方市教育委員会学校教育課 課長補佐・指導主事 | 五十嵐直登 |

### ー　編集後記　ー

「見えない根が育った一年」

令和７年度の農業科も、地域の皆様の温かなご支援のもと、無事に一年を終えることができました。今年は記録的な暑さや水不足など、自然の厳しさを感じる場面も多くありましたが、子どもたちはその中でたくましく学び、成長しました。

土に触れ、作物の命と向き合い、仲間と協力しながら汗を流す日々。その中で育まれたのは、単なる知識や技術だけではありません。困難に立ち向かう「粘り強さ」、支えてくれる人々への「感謝の心」、そして自分の手で育てたものを誰かに届ける「誇り」。それらは、目には見えないけれど、確かに子どもたちの中に根を張った“非認知能力”です。

今年の作品には、自然との対話を通して得た気づきや、仲間との協力の大切さ、地域とのつながりへの感謝が、素直な言葉で綴られていました。どの作品からも、子どもたちのまなざしの奥にある「育ち」が感じられ、読み手の心をあたたかくしてくれます。

農業科は、子どもたちの心に“根っこ”を育てる学びの場。これからも、地域とともに歩みながら、子どもたちの未来を支える豊かな土壌であり続けたいと願っています。

（学校教育課学校経営アドバイザー　髙橋　弘悦）

令和７年度喜多方市小学校農業科作文コンクール作品集
令和８年３月　　発　行
喜 多 方 市 教 育 委 員 会

会津型　「さくら蝶]」

　喜多方の染型紙（会津型）は江戸後期から昭和初期にかけて、喜多方の小野寺家を通じて販売・製造された染型紙です。